

昭和 46 年 度

地力保全基本調査成績書

〔渡島噴火湾地域 八雲町〕

北海道立中央農業試験場

76

序

現状における土地生産力は諸種の土壌的阻害要因によって十分にその地力を発揚できない場合が少なくないのみならず、一方では剝脱要因もあってその地力は消耗低下しつつある。従ってこれら阻害要因を排除して合理的かつ適切な地力保全の対策を推進し、もって当面の農業構造改善の基盤整備に資するため、昭和34年より農林省農政局の助成を得て基本的土壌調査分類を実施している。

本調査成績書は昭和46年度に行なった9地域13市町村をとりまとめたもので、ここにこれを公表し営農安定の資に供する次第である。

現地調査の遂行に際して御協力を得た関係市町村、農業協同組合ならびに農業改良普及所の関係各位に対して、深く感謝の意を表する。

昭和47年3月

北海道立中央農業試験場

場長 和田忠雄

調査並びに取まとめ方法

本調査は、凡そ100ha以上の集団になっている農耕地および付帯地を調査対象とし、調査および取まとめに当っては、夫々下記の資料に基づいた。

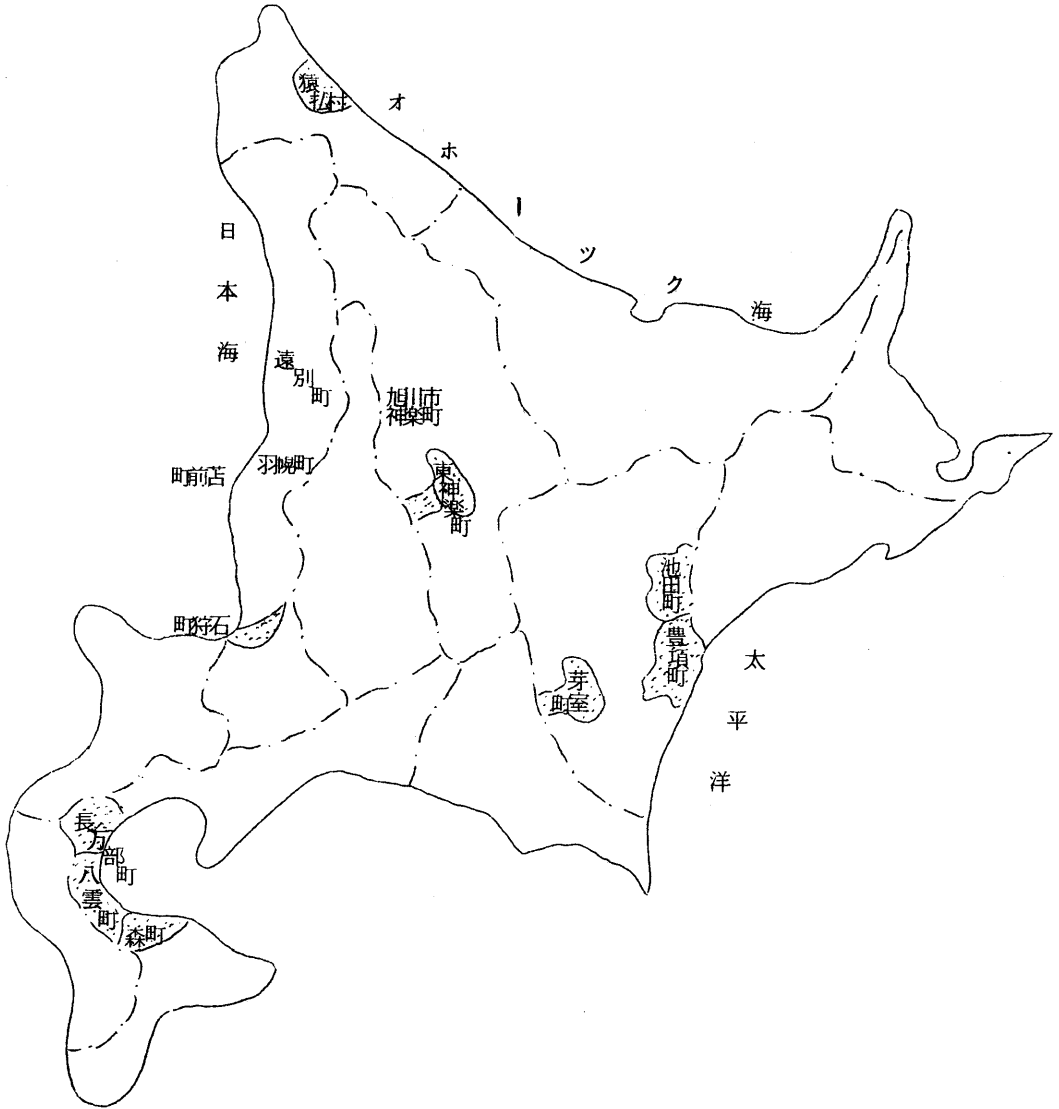
1. 土壤断面調査および現地での営農状況は地力保全対策資料第6号（昭和36年9月農林省振興局農産課）によった。
2. 土壤統および区の設定並びに土壤生産力可能性等級基準は、地力保全対策資料第12号（昭和40年3月農林省農政局農産課）及び水田土壤統設定第1次案（昭和38年12月農技研化学部第3課）による。
3. 土壤統および土壤区の設定に当っては、北海道農業試験場農芸化学部土壤第1研究室の土性図を参照した。

化学部	部長	森哲郎
土壤改良科	科長	後藤計二
	第1係長	小林莊司
	研究職員	水元秀彰
	"	伊東輝行
	"	木村清
	"	松原一実
	第2係長	山口正栄
	研究職員	小林茂
	"	宮脇忠
	"	山本晴雄
	"	高橋市十郎
	"	上坂晶司
	十勝農試	菊地晃二
	"	関谷長昭
	"	横井義雄
	北見農試	秋山喜三郎
	上川農試	野崎輝義
	"	土居晃郎
	天北農試	奥村純一

1 調査地域一覧

調査地域名	該 当 市 町 村 名	農 地 面 積 (調査対象面積)(ha)		既調査面積 (ha)		本年度調査面積 (ha)	
		水 田	畑	水 田	畑	水 田	畑
十 勝 東 部	豊 頃 町	351	8,290	0	0	351	8,290
	池 田 町	912	7,049	0	0	912	7,049
渡 島 噴 火 湾	八 雲 町	390	4,678	0	0	390	4,678
	長 万 部 町	211	1,607	0	0	211	1,607
駒 力 岳 山 麓	森 町	251	2,154	0	0	251	2,154
十 勝 岳 西 山 麓	旭 川 市 神 楽 町	1,941	2,142	0	0	1,941	2,142
	東 神 楽 町	2,351	1,630	0	0	2,351	1,630
留 萌	苫 前 町	1,084	1,318	0	0	1,084	1,318
	羽 幌 町	1,300	1,229	0	0	1,300	1,229
天 塩	遠 別 町	937	1,804	0	0	937	1,804
石 狩 北 部 沿 海	石 狩 町	3,627	1,958	0	0	3,627	1,958
稚 内	猿 払 村	0	1,636	0	0	0	1,636
十 勝 中 部	芽 室 町	83	21,350	0	0	83	21,350

調査地区位置図



渡島噴火湾地域 山越郡八雲町

1. 地区の概況

1) 位置及び調査面積

- (1) 位置 北海道山越郡八雲町
 (2) 調査面積 (ha)

都市町村名	農地総面積				調査対象面積				過年度調	
	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑
山越郡八雲町	390	4678	—	5068	390	4678	—	5068	—	—
査面積(41)	本年度調査面積				次年度以降調査計画面積				備考	
樹園地計	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計		
—	390	4678	—	5068	—	—	—	—		

2) 気象

本地区は太平洋西部の気候区に属し、表日本型の海洋性気候である。その特徴としては、道南部に位置するため道中部、道北部より年平均気温が1～2℃高く、年間を通じて道内では最も温和な地域であるが、春季から夏季に海霧の影響を受けるため、最高気温の低下、また日照時数の減少を招いている。しかしこの反面農期間中の最低気温はあまり下がらず、冷害の危険度は少ない。このような気象条件下のため、稲作は少なく主畜・混同経営が主体である。

項目	月別										
	4	5	6	7	8	9	10	11			
気温 (°C)	平均	5.5	10.7	14.9	19.6	21.7	17.4	11.0	4.4	晩霜 4月27日	
	最高平均	10.2	15.9	19.3	23.5	25.7	22.3	16.5	8.7	初霜 10月16日	
	最低平均	0.8	5.5	10.4	15.6	17.7	12.5	5.5	0.1	晩雪 4月13日	
降雨量 (mm)	平均	75	73	80	132	130	157	84	85	初雪 11月 3日	
※ 湿度 (%)		71	74	83	85	83	79	74	70	※ 森測候所	
風速 (W/S)		4.2	3.7	3.0	2.7	2.7	3.3	3.7	4.1	の観測	
日照時数 (時)		215.1	218.0	186.5	164.0	183.7	181.7	174.3	127.6		

3) 土地条件

(1) 地形

本地区の地形はその多くは檜山支庁と境界をなす山地群とこれに連なる丘陵地で、農耕地としてはこれらの麓部に分布する台地、海岸および河川に沿ってみられる段丘地、河川流域の低平地および扇状地などに分布している。

(2) 地質

新第三紀層を基盤とし、この上部に第四紀の台地、段丘群が堆積している。これらは地形的に高位、低位に細分されるが、ともにその上部はローム、新期の火山灰により覆われている。その火山灰(北海道農業試験場土性調査報告 第二十編参照)は概略次のようである。

駒ヶ岳火山灰d層 (K-d)

本地区の全域に降灰分布しており、農耕地の表土となっている。南部ほど堆積は厚く粒径も大きいも落部で40～60cm、粒径3mm内外、山越で30～40cm、市街地以北は20～30cmでいずれも細い浮石砂である。保肥力は小さく塩基には乏しい。

駒ヶ岳火山灰e層 (K-e)

全域に分布し、K-d層直下に堆積しているが薄層のため全層黒色を呈し、本層下部のローム質土壌の腐植層部との識別が困難なところが多い。北部の泥炭地における火山のc層は細粒質のミガキ粉状を呈する。

洪積火山灰質土壌 (古期ローム)

前記した新期火山灰層に埋積された古い火山灰質土壌で風化を受けて細粒質で上部は腐植含量が極めて多い。

(3) 侵蝕状況

表土となっている土壌が前記したように細粒の浮石砂よりなるため台地上部の傾斜地においてはかなりの土壌侵蝕が認められる。

(4) 交通状況

海岸に沿って国鉄・函館本線と国道5号線が通じ、そのほぼ中央部の市街地から嶺山支庁官内へ道々を通じ改良工事を終えている。また落部からも同様な道々が開かれているが、いずれも横の連絡が不足で奥地では不便である。

4) 土地利用及び営農状況

(1) 専兼業別・経営形態別農家数と農業従事者数

	農家専業兼業			自給	経営形態別農家数(戸)					従事者数(人)		
	総数(戸)	(戸)	(戸)		(戸)	田作	畑作	田畑作	酪農	混同	世帯員	常雇
全体	916	424	492		48	58	51	469	88	2634	23	27542
1戸当	—	—	—	—	—	—	—	—	—			

(2) 経営耕地面積

	総数	田	畑	牧草地	樹園地	その他	土地総面積に対する割合
総面積 (ha)	4676	608	1576	2541	6	84	%
1戸当 (ha)							—

(3) 主要農作物作付面積と収量

	水稲	えん麦	麦類	小豆	豆類	馬鈴薯	てん菜	青刈とうもろこし
作付面積 Kg	569	233	5	117	67	296	128	820
10a当収量Kg	316	121	155	119	136	1790	2380	5470

(4) 家畜飼養農家数と飼養頭羽数

	牛		馬	豚	めん羊	にわとり	牛乳生産量 (t)
	乳用	役肉用					
総数(頭羽)	6929	41	578	1351		24587	15653
農家数(中)	544	8	542	78	2	299	
1戸当(頭羽)							

(5) 農用機械所有数

	農家数戸	台数(台)
10馬力未満	個人有	109
	共有	—
10馬力以上	個人有	115
	共有	—

本町の農業経営形態は水田専業は少なく大部分が酪農と畑作物を加えた混同経営である。これは海霧がかかり道南においては気候が冷涼なことに起因するといえよう。また農耕地の表土は未風化な浮石砂礫層よりなり、かつ未改良地が大部分で畑生産物の収量は低い。

2 土壌類型区分及び説明

1) 土壌統一覧及び土壌区一覧

(1) 土壌統一覧

土壌統名	色層序	腐植層序	礫層・砂礫層 礫を混在する 砂層	酸化 沈積物	土性		母材	堆積様式	目次
					表土	次層			
豊津	YR/YR	表層多腐植層	なし	なし	壤質	粘質	非固結火成岩	風積/洪積	9
黒岩	"	表層腐植層	"	"	"	壤質	"	" / "	12
八雲	"	表層腐植層なし (埋没土層あり)	あり	"	砂質	砂質	"	" / "	14
熱田	"	表層多腐植層	"	"	壤質	"	"	" / "	17
上八雲	"	"	なし	あり	"	壤質	"	" / "	21
入沢	"	表層腐植層なし (埋没土層あり)	あり	なし	砂質	砂質	" / 非固結 水成岩	風積/水積	23
落部	"	表層腐植層なし	"	あり	壤質	壤質	" / "	" / "	26
大新	"	表層腐植層なし (埋没土層あり)	なし	なし	"	粘質	" / "	" / (扇状堆)	29
桜野	"	(")	あり (5cm以下)	"	"	壤質	" / "	" / (")	31
鉛川	"	表層腐植層	" (4cm以下)	"	"	"	" / "	" / (")	34
山越	"	"	"	あり	"	砂質	" / "	" / (")	37
八雲北	"	表層腐植層	なし	なし	"	粘質	" / "	" / (")	39
花浦	"	"	"	"	粘質	砂質	非固結火成岩/ヨシ	" / 集積	42

土壌統名	色層序	腐植層序	礫層・砂礫層 礫を混在する 砂層	酸化 沈積物	土性		母材	堆積様式	目次
					表土	次層			
わしのす	YB/YR	全層多腐植層	なし	なし	壤質	泥炭	非固結火成岩/ヨシ	風積/集積	45
山崎	"	"	"	"	"	"	" / ヨシ ヌマガヤ	" / "	47
わらび野	"	表層腐植層なし	あり (20m以下)	"	"	礫質	非固結水成岩	水積(河成)	50
春日	"	"	" (50m以下)	"	粘質	砂質	"	"	52
立岩	"	"	" (50m以下)	"	"	壤質	"	"	54
茶屋川	"	"	" (65m以下)	"	"	砂質	"	"	57
立岩南	"	"	なし	あり	壤質	"	"	"	59
山崎北	"	"	あり (75m以下)	"	"	壤質	"	"	62
富咲	"	"	なし	なし	砂質	"	"	水積(扇状堆土)	64
黒岩北	"	"	あり (34m以下)	"	壤質	砂質	"	"	66

(2) 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式	畑面積 (ha)	備考 (農牧適地面積)
豊津	II fns	47	116
黒岩	II sII fne	175	578
八雲	II ts II (w) fnie	1286	6341
熱田	II t(w) fnis	974	3598
上八雲	III f II wn	108	177
入沢	II t(w) i	315 (水田95)	464
落部	II wfn	103 (水田47)	168
大新	II n	411	560
桜野	II d fns	115	189
鉛川	II dis	89	171
山越	II t w f n i a	63 (水田24)	308
八雲北	II w II g f n a	129 (水田38)	418
花浦	I w n II t f i a	35	105
わしのす	II w f II n a	120	401
山崎	II w II f n a	71	232
わらび野	III d i II t g (w)	87	218
春日	II t d g n	192 (水田86)	479
立岩	II t d p	506 (水田74)	842
茶屋川	II t d a	16	32
立岩南	II t w	92	174
山崎北	III w II t d g n a	73 (水田26)	180
富咲	II g f n s	44	93
黒岩北	III d i II t g s	17	23

2) 土壤統別説明

豊 津 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量8%内外、土性はSLを主とする。色は10YRで明度2、彩度1~2、発達弱度の粒状構造、可塑性・粘着性なし~極めて弱い。ち密度1.5~2.0で疎~中、pH(H₂O)5.5~6.0、層界は明瞭である。(K-d)

第2層は厚さ10cm前後で腐植含量1.5%内外、土性はCLを主とする。色は7.5~10YRで明度1、彩度1、発達弱~中度の細粒状構造と弱度の塊状構造、細孔に頗る富む。可塑性・粘着性ともにやや強い。ち密度2.0前後で中、pH(H₂O)5.5前後、層界は判然である。(主にK-e)

第3層は厚さ15cm前後で腐植含量1.0%内外、土性CLを主とする。色は7.5~10YRで明度3、彩度3、発達中度の塊状構造と粒状構造、細孔に頗る富む。可塑性・粘着性ともにやや強、ち密度2.0前後で中、pH(H₂O)5.5前後、層界は判然である。(本層以下古期ローム)

第4層は厚さ10cm前後で腐植含量5%内外、土性はCLを主とする。色は7.5~10YRで明度2~3、彩度3、発達弱度の塊状構造、細孔に富む。可塑性・粘着性ともに強、ち密度2.0前後で中、pH(H₂O)5.5前後、層界は漸変である。

第5層は概ね55cm以下で腐植を欠き土性はCLを主とする。色は7.5~10YRで明度4~5、彩度4~6、発達中度の塊状構造、細孔に富む。可塑性・粘着性ともにやや強、ち密度2.5前後で密、pH(H₂O)5.5前後。

代表的断面形態

所在地 山越郡八雲町黒岩 試坑No.Y35

第1層	0~21cm	腐植富む黒(10YR2/1)のSL、弱度の粒状構造 可塑性・粘着性なし ち密度2.3で中、pH(H ₂ O)5.7 湿りは半乾、層界明瞭
第2層	21~29	腐植頗る富む黒(7.5YR1/1)のSiCL、弱度の細粒状構造と塊状構造、 細孔頗る富む、可塑性・粘着性やや強、ち密度2.2で中、pH(H ₂ O)5.5 湿りは半湿、層界判然
第3層	29~43	腐植頗る富む黒褐(7.5YR3/2)のCL(触感)、中度の塊状構造と粒状 構造、細孔頗る富む、可塑性・粘着性やや強、ち密度1.9で中、pH(H ₂ O) 5.5、湿りは半湿、層界判然
第4層	43~55	腐植富む黒褐(7.5YR2/3)のCL(触感)、弱度の塊状構造と粒状構造 細孔富む、可塑性・粘着性やや強、ち密度2.2で中、pH(H ₂ O)5.6、湿 りは半湿、層界漸変

第5層	55~	褐 (7.5 YR 4/4~6) のCL (触感)、中度の塊状構造、細孔富む、可塑性 ・粘着性やや強、ち密度2.3で中、pH (H ₂ O) 5.5
-----	-----	--

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				※土性	現地容積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~21	2.7	44.5	29.5	20.8	5.2	SL			4.57	0.22	20.8	7.7
2	21~29	11.1	4.7	30.0	46.8	18.5	SiCL			10.60	0.43	24.7	16.3
3	29~43	13.9	4.7	48.8	38.1	8.4	L (CL)			8.61	0.42	20.5	12.8
4	43~55	11.0	5.9	53.4	35.5	5.2	L (CL)			5.53	0.29	19.1	8.5
5	55~	7.6	8.1	57.1	25.8	9.0	SL (CL)			—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度 Y1	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収 係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.7	4.6	5.5	12.3	2.5	0.6	0.2	20.3	7.03	8.1
2	5.5	4.4	8.8	54.5	12.2	2.7	0.3	22.4	21.92	18.5
3	5.5	4.5	6.9	36.5	4.4	2.1	0.1	12.1	25.31	6.2
4	5.6	4.6	3.8	27.4	2.0	2.2	0.2	7.3	24.21	4.7
5	5.5	4.9	3.1	17.7	1.7	2.4	0.2	9.6	21.73	5.4

※土性 () 内は農学会法触感による

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統には黒岩統、八雲統、熱田統があるが黒岩統は傾斜地であり八雲統、熱田統はK-a層が本統より厚いので区別した。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積 (火山性) / 洪積 (火山性)

B 地形 標高20~40m、傾斜2~6°の海岸段丘

C 気候 年平均気温7.8℃ 年降水量1,156mm

D 植生および利用状況 一部畑地で大部分採草地・放牧地である。

E 農業上の留意事項 深耕、有機物施用、酸性矯正、塩基の補給

F 分布 北海道山越郡長万部町蔵岱、富野、豊津の一部

八雲町黒岩の一部

調査及び記載責任者 山口 正 栄 (北海道立中央農業試験場)

宮 脇 忠

昭和47年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壌 区 名 簡略分級式
 豊津 — 豊津 II f n s

② 土壤区別説明

豊津統 — 豊津区

示性分級式 (畑)

土壌生産力の可能性等級	有効土層の厚さ	表土の粘着性	表土の風乾の硬さ	土の透水性	土の保水性	自然保肥力	固定力	塩基状態	置換の性質	苦土加里	有機燐加里	微酸量	有害物質の無性	物理的障害の無性	増冠水の危険度	地すべりの危険度	傾斜	人為的傾斜	人為的傾斜	耐水性	耐風性
t d g p			w		f	n			i	a	s	e									
II I I I I I	I I I I I	I I I I I	(2) I I I I I	(2) I I I I I	II 2 2 3 II	3 2 2 2 1 2	I I I I I	II 2 — —	I I I I I	II 2 — —	I I I I I	II 2 — —	I I I I I	II 2 — —	I I I I I	II 2 — —	I I I I I	II 2 — —	I I I I I	II 2 — —	I I I I I
簡略分級式 II f n s																					

A 土壤区の特徴

この土壤区は豊津統に属する。表土の厚さは30～40cmで深く、有効土層1m以上で深い。表土の土性 中位質で耕起・砕土は容易である 透水性大。保水性中で過湿・過乾のおそれは少ない。保肥力中、固定力小、塩基状態不良で肥沃度は中位。養分分では石灰少なく他はいずれも中庸で中酸性～強酸性を呈する。2～6°の緩傾斜地で侵蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況

一部に畑地もあるが大部分は採草地・放牧地となっている。

C 地力保全上の問題点

一般に作土が浅いので深耕をすることが望ましい。牧草更新時にでも出来るだけ実施されたい。その場合下層土は酸性を呈するから炭カル500～700Kg/10aを使用のこと。また堆きゅう肥等有機物の施用も必要であろう。

本土壌区内には苦土欠乏 加里欠乏の症状を現した牧草も多いのでこれらの肥料の施用量も増量するべきである。

D 分 布

北海道長万部町蔵、富野、豊津の一部

” 八雲町黒岩の一部

記載責任者 宮勝 忠 (北海道立中央農業試験場)

昭和47年3月31日

黒 岩 統

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20～25cmで腐植含量7%内外、土性はLを主とする。色は10YRで明度2～3、彩度2、発達弱度の粒状構造を呈する。可塑性・粘着性弱くち密度1.2前後で疎、pH (H₂O) 5.5前後、層界は明瞭である。(K-d)

第2層は厚さ10cm前後で腐植含量5%内外、土性はCLを主とする。色は10YRで明度3、彩度4、発達中度の粒状構造と弱度の塊状構造、細孔・小孔に富む。可塑性・粘着性とも強、ち密度2.0前後で中、pH (H₂O) 5.5前後、層界は漸変である。(本層以下古期ローム)

第3層は厚さ10cm前後で腐植を欠く、土性はCLを主とする。色は10YRで明度4、彩度4～6、発達弱度の粒状構造と中度の塊状構造、細孔に頗る富み小孔を含む。可塑性・粘着性ともにやや強、ち密度2.0前後で中、pH (H₂O) 5.5前後、層界は漸変である。

第4層は概ね4.5cm以下で腐植を欠く、土性はCLを主とする。色は10YRで明度5、彩度6、発達中度の塊状構造、細孔に富み小孔を含む。可塑性・粘着性ともにやや強、ち密度2.0前後で中、pH (H₂O) 5.5～6.0

代表的断面形態

所在地 山越郡八雲町黒岩 試坑No Y34

第1層	0～23cm	腐植含む黒褐(10YR 3/2)のL、弱度の粒状構造、可塑性・粘着性弱、ち密度1.1で疎、PH (H ₂ O) 5.4、湿り半乾、層界明瞭
第2層	23～34	腐植含む暗褐(10YR 3/4)のCL(触感)中度の粒状構造と弱度の塊状構造、細孔頗る富み小孔富む、可塑性粘着性強、ち密度1.9で中、pH (H ₂ O) 5.6、湿り半湿、層界漸変
第3層	34～46	褐(10YR 4/4)のCL(触感)、弱度の粒状構造と塊状構造、細孔頗る富み小孔含む、可塑性・粘着性やや強、ち密度2.2で中、pH (H ₂ O) 5.5 湿り半湿、層界漸変
第4層	46～	黄褐(10YR 5/6)のCL(触感)、中度の塊状構造、細孔富み小孔含む、可塑性・粘着性やや強、ち密度2.0で中、pH (H ₂ O) 5.8、湿り半湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				※ 土 性	現地容積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘土							
1	0～23	5.0	22.4	33.0	34.8	9.8	L			4.46	0.28	15.9	7.3
2	23～34	8.9	5.0	53.0	37.6	4.4	L (CL)			4.30	0.24	17.9	6.8
3	34～46	9.7	4.4	54.3	35.1	6.2	L (CL)			—	—	—	—
4	46～	9.6	17.3	44.9	32.3	5.5	L (CL)			—	—	—	—

単位	pH		置換酸 度 Y1	塩基置換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g				石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O				
1	5.4	4.8	5.0	17.7	6.5	1.7	1.1		36.7	1072	14.7
2	5.6	4.6	2.4	22.0	2.6	1.3	0.8		11.8	2130	10.2
3	5.5	4.7	1.3	21.5	3.0	0.8	0.4		14.0	2243	5.5
4	5.8	4.8	5.5	20.8	2.4	0.2	0.3		11.5	2307	5.5

※ 土性 () 内は農学会法触感による

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては豊津統、八雲統、熱田統があるが、豊津統とは地形を異にし他の2統はK-d層が本統より厚いため区分した。

A-3 母材

非固結火成岩

A-4 堆積様式

風積(火山性) / 洪積

B 地形

標高40~200m、傾斜4~10°の波状性海岸段丘

C 気候

年平均気温7.8℃ 年降水量1,156mm

D 植生及び利用状況

畑地、採草地、放牧地となっている。

E 農業上の注意事項

侵蝕防止、有機物施用、酸性矯正、塩基の補給

F 分布

北海道山越郡八雲町黒岩・山崎の一部

調査及び記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

昭和47年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壌 区 名	簡略分級式
黒岩 — 黒岩	Us Ifne

② 土壌区別説

黒岩統 — 黒岩区

明度 7～8、彩度 2～3、層界は明瞭である。(以上 K-a)

第3層は厚さ 15 cm 前後で腐植含量 20% 内外、土性は CL を主とする。色は 10 YR で明度 1、彩度 1、弱度の粒状・塊状構造、細小孔に富む。可溶性・粘着性中～やや強、ち密度 20 前後で中、pH (H₂O) 6 前後、層界は判然である。(K-e 混、以下古期ローム)

第4層は厚さ 10 cm 前後で腐植含量 10～15%、土性は CL (触感) を主とする。色は 7.5～10 YR で明度 2、彩度 1、弱度の細粒状構造と塊状構造、細小孔に富む。可溶性粘着性中～やや強、ち密度 20 前後で中、pH (H₂O) 5.5 前後、層界は判然である。

第5層は厚さ 15 cm 前後で腐植含量 5% 内外、土性は CL (触感) を主とする。色は 7.5～10 YR で明度 3、弱度の塊状構造で細孔を含む。可溶性・粘着性中～やや強、ち密度 20 前後で中、pH (H₂O) 5.5～6.0、層界は漸変である。

第6層は概ね 85 cm 以下で腐植を欠く、土性 CL (触感) を主とする。色は 7.5～10 YR で明度 4、彩度 4～6、弱度の塊状構造で細孔を含む、可溶性・粘着性中～やや強、ち密度 20 前後で中

代表的断面形態

所在地 山越郡八雲町浜中 試坑 No. Y19

第1層	0～15cm	腐植富む黒褐 (10 YR 3/1) の LS、弱度の細粒状構造、可溶性・粘着性なし、ち密度 15 で疎、pH (H ₂ O) 6.2、湿り乾、層界明瞭
第2層	15～45	鈍黄橙 (10 YR 7/3) の浮石砂礫層、湿り乾、層界明瞭
第3層	45～58	腐植頗る富む黒 (10 YR 1/1) の CL (触感)、弱度の粒状・塊状構造、細小孔に富む。可溶性・粘着性やや強、ち密度 20 で中、pH (H ₂ O) 5.8、湿り半湿、層界判然
第4層	58～71	腐植頗る富む黒 (7.5 YR 2/1) の CL (触感)、弱度の粒状・塊状構造、細小孔に富む。可溶性・粘着性やや強、ち密度 20 で中、pH (H ₂ O) 5.5、湿り半湿、層界判然
第5層	71～85	腐植富む暗褐 (7.5 YR 3/3) の CL (触感)、弱度の塊状構造、細孔を含む。可溶性・粘着性やや強、ち密度 22 で中、pH (H ₂ O) 5.8、湿り半湿、層界漸変
第6層	85～	褐 (10 YR 4/4) の CL (触感)、弱度の塊状構造、細孔を含む。可溶性中、粘着性やや強、ち密度 23 で中、pH (H ₂ O) 5.8、湿り半湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				※ 土性	現地容積	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～15	1.7	72.7	16.5	6.2	4.6	LS			2.42	0.17	14.2	4.1
2	45～58	11.6	11.6	31.9	40.4	16.1	CL			10.63	0.81	13.1	2.44
3	58～71	12.4	19.2	42.9	33.4	4.5	L (CL)			16.13	1.19	13.7	16.3
4	71～85	9.6	20.9	56.7	20.2	2.2	SL (CL)			5.53	0.39	14.2	8.7
5	85～	7.6	23.7	56.9	18.0	1.4	SL (CL)			—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.2	5.9	0.6	7.1	6.2	1.5	0.2	87.3	340	5.22
2	5.8	4.7	2.5	61.1	17.8	3.6	0.6	29.1	2416	7.9
3	5.5	4.7	2.5	45.7	7.1	1.6	0.3	15.5	2538	5.7
4	5.8	4.8	1.9	23.7	3.4	2.3	0.3	14.3	2278	5.5
5	5.8	4.8	1.5	21.6	2.8	1.4	0.3	13.0	2080	6.2

※ 土性 () 内は農学会法触感による。

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては豊津統、黒岩統、熱田統があるが前2統はK-a層が薄く熱田統とは地形を異にするので区分した。

A-3 母材

非固結火成岩

A-4 堆積様式

風積(火山性) / 洪積

B 地形

標高40~200mの傾斜4~12°の波状性海岸段丘及び高台地

C 気候

年平均気温 7.8℃ 年降水量 1,156mm

D 植生及び利用状況

畑地・草地である。

E 農業上の注意事項

侵蝕防止、混層耕、有機物施用、塩基の補給

F 分布

北海道茅部郡森町三岱の大部分

山越郡八雲町浜中、台ノ上の大部分、境川・熱田・春日・鉛川・上八雲の一部

調査及び記載責任者 小林 茂 (北海道立中央農業試験場)

宮脇 忠

昭和47年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壌 区 名	簡略分級式
八雲 - 八雲	III ts II(w)fnie

② 土壌区別説明

八雲統 - 八雲区

示性分級式 (畑)

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	耕耘の難易	表土の風乾の粘性	表土の乾燥の硬さ	透水性	保水性	自然潤肥度	固定力	養分塩基状態	置換性	石灰含有量	加里含有量	微酸要素	有害物質の有無	物理的障害の有害性	増冠水の危険度	地すべりの危険度	傾斜の方向	人為的傾斜	侵蝕の程度	耐風蝕性	耐水蝕性													
Ⅲ	Ⅲ	I	I	I	1	1	(2)	Ⅲ	1	3	(2)	Ⅱ	2	1	2	Ⅱ	2	1	3	1	1	1	Ⅱ	1	2	I	1	1	Ⅲ	3	—	—	Ⅱ	2	2	2
簡略分級式 Ⅲ t S I (W) f n i a s e																																				

A 土壤区の特徴

この土壤区は八雲統に属する。表土の厚さは15cm前後で浅く、有効土層1m以上で深い。表土の土性は粗粒質で耕耘・砕土は容易である。透水性大、保水性小で過乾のおそれがある。保肥力中、固定力極小、塩基状態中で肥沃度は中位、養分分は加里少なく石灰中で他は多いほうである。次層は未風化な浮石砂礫層があり障害となっている。波状性の傾斜地で水蝕の発生がみられる。

B 植生及び利用状況

概ね畑地・草地である。

C 地力保全上の問題点

傾斜地であるから侵蝕の防止に努め、草地化して土壤保全に留意すること。緩傾斜のところでは混層耕(反転客土)をするとよい。その場合の深さは70~80cmは可能である。また混層時には下層土の磷酸固定力が強いから溶磷等の土改資材を投入すること。完熟堆き糞・う肥等の有機物施用も望ましい。加里が少ないので増量すること。

D 分布

北海道茅部郡森町三岱の大部分

山越郡八雲町浜中・台ノ上の大部分、境川・熱田・春日・鉛川・上八雲の一部

記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

昭和47年3月31日

熱 田 読

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量5%内外、土性はSLを主とする。色は10YRで明度3、彩度2、発達弱度の粒状構造、可塑性・粘着性ともに弱～欠く、ち密度1.5前後で疎、pH (H₂O) 5.5～6.0、層界は明瞭である。

第2層は厚さ10cm前後で腐植欠く浮石砂礫層、色は10YRで明度7～8、彩度2、ち密度1.3前後で疎、層界は明瞭である。(以上 K-d)

第3層は厚さ15cm前後で腐植含量15%内外、土性はCL (触感) を主とする。色は7.5～10YRで明度1～2、彩度1、発達中度の粒状構造で細孔を含み小孔に富む。可塑性・粘着性ともに中、ち密度2.0前後で中、pH (H₂O) 5.5～6.0、層界は判然である。(K-e混、以下古湖ローム)

第4層は厚さ15cm前後で腐植含量15%内外、土性はCL (触感) を主とする。色は10YRで明度2、彩度3、発達弱度の塊状構造で細小孔に富み中孔を含む。可塑性・粘着性ともに中、ち密度2.0前後で中、pH (H₂O) 5.5～6.0、層界は判然である。

第5層は厚さ15cm前後で腐植を欠き、土性はCL (触感) を主とする。色は10YRで明度4、彩度6、発達中度の塊状構造で細中孔を含み小孔に富む。可塑性・粘着性ともに中、ち密度2.0前後で中、pH (H₂O) 5.5～6.0、層界は漸変である。

第6層は厚さ15cm前後で腐植を欠き、土性はCL (触感) を主とする。色は10YRで明度5、彩度5、発達中度の塊状構造で小孔に富む。可塑性・粘着性ともに中～やや強、ち密度2.5前後で密、pH (H₂O) 6前後、層界は漸変である。

(本層の下部に5～7cmの層厚で黄褐色の浮石砂礫層が存在する。)

第7層は概ね90cm以下で腐植を欠き、土性はCL (触感) を主とする。色は10YRで明度5、彩度8、発達中度の塊状構造、可塑性・粘着性ともにやや強、ち密度2.7前後で密、pH (H₂O) 6前後。

代表的断面形態

所在地 山越郡八雲町熱田 試坑No. Y11

第1層	0～20cm	腐植富む黒褐(10YR3/2)のSL、弱度の粒状構造、可塑性・粘着性欠く、ち密度1.5前後で疎、pH (H ₂ O) 5.7、湿り半湿、層界明瞭
第2層	20～30	灰白(10YR8/2)の浮石砂礫層、湿り乾、層界明瞭
第3層	30～45	腐植頗る富む黒(7.5YR2/1)のCL (触感)、中度の粒状構造、細孔富み小孔含む、可塑性・粘着性中、ち密度2.0で中、pH (H ₂ O) 5.7、湿り半湿、層界判然
第4層	45～58	腐植富む黒褐(10YR2/3)のCL (触感)、弱度の塊状構造、細小孔富み中孔含む、可塑性・粘着性中、ち密度2.1で中、pH (H ₂ O) 5.8、湿り半湿、層界判然
第5層	58～73	褐(10YR4/6)のCL (触感)、中度の塊状構造、細中孔含み小孔富む、可塑性・粘着性中、ち密度2.0で中、pH (H ₂ O) 5.8、湿り半湿、層界漸変
第6層	73～91	黄褐(10YR5/6)のCL (触感)、中度の塊状構造、小孔富む、可塑性中、粘

第7層	91~	着性やや強、ち密度23で中、pH (H ₂ O) 5.9、湿り半湿、層界漸変 黄褐(10YR5/8)のCL(触感)、中度の塊状構造、可塑性・粘着性やや強、 ち密度28で密、pH (H ₂ O) 5.9、湿り半湿
-----	-----	---

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				※ 土 性	現地容積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	4.2	56.0	24.9	14.5	4.6	SL			3.35	0.16	20.9	5.6
2	25~45	12.6	3.9	44.2	43.1	8.8	L (CL)		1.214	0.54	22.5	18.4	
3	45~58	10.6	6.5	65.1	27.8	0.6	SL (CL)		6.21	0.34	18.3	9.6	
4	58~73	11.0	10.5	62.7	23.6	3.2	SL (CL)		—	—	—	—	
5	73~91	12.2	16.9	57.1	23.5	2.5	SL (CL)		—	—	—	—	
6	91~	8.3	56.8	32.2	11.0	0	S (CL)		—	—	—	—	

層位	pH		置換酸 度 Y1	塩基置換 容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g				石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O				
1	5.7	4.8	1.9	11.9	3.9	1.6	0.2		3.28	98.1	16.2
2	5.7	4.5	8.1	49.6	5.0	3.2	0.2		10.1	253.3	6.4
3	5.8	4.8	3.1	30.7	1.1	2.0	0.2		3.6	248.6	6.7
4	5.8	5.4	1.6	17.3	0.7	2.3	0.4		4.0	238.3	5.4
5	5.9	5.4	0.9	16.9	0.9	0.9	0.3		5.3	235.5	5.5
6	5.9	5.8	1.6	9.2	0.4	0.7	0.4		4.3	196.8	5.2

※ 土性 () 内は農学会法触感による。

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては豊津統、黒岩統、八雲統があるが、前2統はK-d層が薄く、八雲統は地形が異なるので区別した。

A-3 母 材

非固結火成岩

A-4 堆積様式

風積(火山性) / 洪積

B 地 形

標高20~200m、傾斜2~6°の海岸段丘・河岸段丘

C 気 候

年平均気温7.8℃ 年降水量1,156mm

D 植生及び利用状況

畑地・草地在りほとんどである。

E 農業上の留意事項

混層耕、有機物施用、塩基の補給

F 分 布

北海道山越郡八雲町の各河川流域の河岸段丘及び山越・熱田の海岸段丘

調査及び記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

昭和47年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
熱田 - 熱田	II t(w)fnis

② 土壌区別説明

熱田統 - 熱田区

示性分級式 (畑)

土 壤	表 土	有 効 土 層	耕 転 層	表 土 粘 土 性	表 土 風 乾 性	土 地 透 水 性	自 然 保 固 力	養 分 状 態	土 質 性	置 換 性	有 効 量	微 酸 性	障 害 質	物 理 的 障 害	災 害 危 険 度	傾 斜 危 険 度	傾 斜 危 険 度	侵 蝕 度	耐 蝕 性																
t	d	g	p		w		f		n				i	a	s		e																		
III	II	I	I	I	1	1	(2)	II	1	3	(2)	II	2	2	3	II	2	1	3	1	1	2	II	1	2	I	1	1	II	2	--	I	1	2	2
簡略分級式 II t(w)fnis																																			

A 土壌区の特徴

この土壌区は熱田統に属する。表土は20cm前後でやや浅い。有効土層1m以上で深い。表土の土性は中応質で耕起・砕土は容易、透水性大、保水性小で過乾のおそれがある。

保肥力中、固定力小、塩基状態不良で肥沃度は中位、養分は加里少なく他は中もしくは多い。次層に未風化する石砂礫層があり障害となっている。地形は2~6°の緩傾斜地である。

B 植生及び利用状況

殆んど畑地・草地である。

C 地力保全上の問題点

作土下に未風化する石砂礫層があって、根部の伸長に支障を来しかつ干ばつの被害を助長しているので混層耕することが望ましく、その場合埋没土層は強酸性で磷酸固定力が大であるから炭カル、熔磷、堆きゅう肥等有機物を施用すること。また一般に加里が少ないから増施すること。

D 分 布

北海道山越郡八雲町の各河川流域の河岸段丘及び山越・熱田の海岸段丘

記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

昭和47年3月31日

上 八 雲 統

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量6%内外、土性はSLを主とする。色は10YRで明度2、彩度2、発達弱度の粒状構造で細孔に富む。可塑性・粘着性ともに弱、ち密度20前後で中、pH(H₂O) 5.5前後、層界は明瞭である。(K-d)

第2層は厚さ20cm前後で腐植含量7~8%、土性はCL(触感)を主とする。色は10YRで明度2~3、彩度3、発達中度の細粒状構造と弱度の塊状構造、細孔に富み小孔を含む、点状斑に富む。可塑性・粘着性ともにやや強、ち密度18前後で疎、pH(H₂O) 5.5~6.0、層界は漸変である。

第3層は概ね40cm以下で腐植を欠き土性CL(触感)を主とする。色は10YRで明度4、彩度4、発達弱度の塊状構造で細孔に富み小・中孔を含む。点状斑を含む。可塑性・粘着性ともに強、ち密度22で中、pH(H₂O) 5.5前後

代表的断面形態

所在地 山越郡八雲町上八雲 試坑No Y26

層位	採取部 cm	腐植富む黒褐(10YR2/2)のSL、弱度の粒状構造、細孔富む、可塑性・粘着性弱、ち密度19で中、pH(H ₂ O) 5.5、湿り湿、層界明瞭
第1層	0~18cm	
第2層	18~36	腐植富む暗褐(10YR3/3)のCL(触感)、中度の細粒状構造と弱度の塊状構造、細孔富み小孔含む。点状斑富む、可塑性・粘着性やや強、ち密度18で中、pH(H ₂ O) 5.7、湿り湿、層界漸変
第3層	36~	褐(10YR4/4)のCL(触感)、弱度の塊状構造、細孔富み小・中孔含む、点状斑含む。可塑性・粘着性强、ち密度23で中、pH(H ₂ O) 5.6、湿り湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部 cm	水分 %	状 径 組 成 %				※土性	現地容積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~18	2.8	36.3	33.4	24.9	5.4	SL			3.33	0.26	12.8	5.6
2	18~36	9.1	13.2	33.0	39.7	14.1	L (CL)			5.01	0.44	11.4	7.9
3	36~	13.1	22.3	52.1	22.1	3.5	SL (CL)			—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度 Y1	塩基置換 容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g				石灰 飽和度 %	リン吸収 係 数	有効態リン mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O				
1	5.5	4.7	2.4	7.0	1.0	1.9	0.1		14.3	6.96	6.4
2	5.7	4.6	2.5	23.8	3.4	1.0	0.1		14.3	18.99	2.5
3	5.6	4.5	2.5	22.3	1.5	1.3	0.1		6.7	24.10	3.5

※ 土性 () 内は農学会法触感による。

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては落部統があるが、堆積様式・腐植含量が異なるので区分した。

A-3 母 材

非固結火成岩

A-4 堆積様式

風積 (火山性) / 洪積

B 地 形

標高 50 ~ 100 m、傾斜 2° 前後の河岸段丘

C 気 候

年平均気温 7.8℃ 年降水量 1,156 mm

D 植生及び利用状況

畑地・草地である。

E 農業上の問題点

排水の完備、深耕、有機物施用、塩基の補給

F 分 布

北海道山越郡八雲町上八雲、富咲の一部

調査及び記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

昭和 47 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
上八雲—上八雲	III f IIw n

② 土壌区別説明

上八雲統 — 上八雲区

示性分級式 (畑)

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	耕転の難易	表土の粘着性	表土の風乾性	地水の乾性	透水性	保湿性	自然肥力	固肥力	養分塩基状態	置換の性質	有微酸	微酸量	有害物質の有害性	物理的障害の危険性	増冠水の危険度	地すべりの危険度	傾斜の傾斜度	人為的傾斜	耐水性	耐風性	耐蝕性	
t d g p			w		f		n					i	a	s	e									
III I I I I 1 1 (2) II 1 2 2 III 3 1 3 II 3 1 3 2 1 2 I 1 1 I 1 1 I 1 — I 1 2 2																								
簡略分級式 III f II w a																								

A 土壤区の特徴

この土壤区は上八雲統に属する。表土は3.5 cm前後で深く、有効土層1 m以上で深い。表土の土性は中粒質で耕起・砕土は容易である。透水性大、保水性中で上部台地からの滲透水の影響で湿性を呈しており一時的に過湿となる。

保肥力小、固定力極小、塩基状態不良で肥沃度は低い。養分は苦土が多めで他は少ない。

B 植生及び利用状況

畑地・草地となっている。

C 地力保全上の問題点

上部台地からの滲透水で湿性を早めているので排水を完全にすること。台地際に補水溝を設けることが効果的であろう。一般に作土層が浅いので堆きゅう肥等有機物を施用しながら深耕すること。各養分に欠乏しているから施肥量を多めにすること。

D 分布

北海道山越郡八雲町上八雲、富咲の一部

記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

昭和47年3月31日

入 沢 統

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ2.5 cm前取で腐植含量5%内外、土性はSを主とする。色は10 YRで明度2、彩度2、発達弱度の細粒状構造、可塑性・粘着性ともに欠く、ち密度1.8前後で疎、pH (H₂O) 6前後、層界は明瞭である。

第2層は厚さ15cm前後で浮石砂礫層、色は10YRで明度7、彩度2~3、ち密度10以下で極疎、pH(H₂O)6前後、層界は明瞭である。(以上K-d)

第3層は厚さ10cm前後で腐植含量10%内外、土性はCLを主とする。色は10YRで明度1~3、彩度1、発達弱度の細粒状構造と中度の細塊状構造、細孔に富む。可塑性・粘着性ともにやや強、ち密度18前後で疎、pH(H₂O)6前後、層界は漸変である。(以下沖積土)

第4層は概ね50cm以下で腐植を欠く、土性はCを主とする。色は10YRで明度5、彩度4、発達中度の細塊状構造、細孔に富む。可塑性・粘着性ともに強、ち密度20前後で中、pH(H₂O)6前後

代表的断面形態

所在地 山越郡八雲町野田追 試坑No Y1

第1層	0~25cm	腐植富む黒褐(10YR2/2)のLS、弱度の細粒状構造、ち密度18で疎、pH(H ₂ O)5.8、湿り乾、層界明瞭
第2層	25~40	鈍黄橙(10YR7/3)のSよりなる浮石層、pH(H ₂ O)6.3、湿り乾、層界明瞭
第3層	40~48	腐植頗る富む黒~黒褐(10YR1~3/1)のLiC、弱度の細粒状構造と中度の塊状構造、細孔富む。可塑性・粘着性やや強、ち密度17で疎、pH(H ₂ O)6.0、湿り半乾、層界漸変
第4層	48~	鈍黄褐(10YR5/4)のLiC、中度の細塊状構造、細孔富む。可塑性・粘着性強、ち密度21で中、pH(H ₂ O)6.1、湿り半乾

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地容積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~25	1.7	68.9	16.9	9.0	5.2	LS	101.9		2.19	0.15	14.3	3.7
2	25~40	0.3	96.9	2.4	0.0	0.7	S	108.7		—	—	—	—
3	40~48	6.4	27.6	8.6	34.6	29.2	LiC	81.0		6.02	0.36	16.7	9.8
4	48~	6.1	1.1	19.2	44.3	35.4	LiC	91.0		—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度Y1	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収 係数	有効遊離 酸mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.8	4.7	1.8	8.7	4.4	3.0	1.4	50.6	260	19.3
2	6.3	5.4	0.5	0.4	0.4	0.4	0.1		78	15.5
3	6.0	5.0	1.4	38.9	22.9	5.7	1.2	58.9	1188	6.4
4	6.1	4.7	2.5	27.1	15.8	6.2	1.7	58.3	993	5.1

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統に大新統があるが、下層の堆積様式と腐植含量等を異にするので区分した。

A-3 母材

非固結火成岩 / 非固結水成岩

A-4 堆積様式

風積(火山性) / 水積(河成)

B 地形

河川流域の低平地

C 気候

年平均気温 7.8℃ 年降水量 1,156mm

D 植生及び利用状況

畑地・草地でまた水田もある。

E 農業上の留意事項

混層耕、有機物施用

F 分布

北海道山越郡八雲町の野田追川、落部川の流域

調査及び記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

昭和47年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡略分級式
入沢 — 入沢	II t(w) i

② 土壌区別説明

入沢統 — 入沢区

示性分級式(畑)

土壌生成力可能性等級	表土の厚さ	表土の粘着性	表土の乾硬性	土壌透水性	自然保湿度	自肥力	養分固定力	養分交換性	置換性	石灰土含量	苦土含量	加磷要素	微酸要素	有害物質の無性	物理的障害の危険度	地すべりの危険度	自然傾斜	人為傾斜	侵入耐性	耐風耐水耐蝕性															
t d g p	w	f	n	i	a	s	e																												
III	II	I	I	I	I	1	1	(2)	II	1	3	(2)	I	2	1	1	I	2	1	1	1	2	II	1	2	I	1	1	I	1	—	I	1	2	2
簡略分級式		II t(w) i																																	

A 土壤区の特徴

この土壤は入沢統に属する。表土は25cm前後でやや浅く有効土層1m以上で深い。表土の土性は粗粒質で耕起・碎土は容易である。透水性大、保水性小で過乾のおそれがある。保肥力中、固定力極小、塩基状態良で肥沃度は高いほうである。養分はいずれも多めである。次層に未風化な浮石層があり障害となっている。

B 植生及び利用状況

畑地・草地で水田もある。

C 地力保全上の問題点

次層に浮石層が存在し障害となっていて、また干ばつを助長している。そのためには混層耕を実施することが望ましい。混層耕実施に際しては堆きゅう肥などの有機物を施用のこと。塩基類に不足しがちであるから増肥することも必要である。

D 分 布

北海道山越郡八雲町野田追川・落部川の流域

記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

昭和47年3月31日

落 部 統

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後で腐植含量3%内外、土性はSLを主とする。色は10YRで明度4、彩度3、発達弱度の塊状構造で糸根状斑をわずかに含む。可塑性・粘着性ともに弱、ち密度は疎、pH(H₂O) 5.2、層界は明瞭である。

第2層は厚さ7cm前後で腐植含量3%内外、土性はSLを主とする。色は5Yで明度3、彩度2、発達弱度の塊状構造、可塑性・粘着性ともに弱、ち密度は疎、層界は判然である。(旧水田時の鋤床層)

第3層は厚さ20cm前後で浮石砂礫層、雲状斑を含む。層界は明瞭である。(以上K-d)

第4層は厚さ3cm前後で腐植含量6~8%、土性はCLを主とする。色は10YRで明度2、彩度2、弱度の細塊状構造、雲状斑を含む。可塑性・粘着性ともにやや強、ち密度は疎である。層界は明瞭である。(以下沖積土)

第5層は概ね45cm以下で腐植を欠き、土性はCを主とする。色は10YRで明度4~5、彩度2~3、無構造で均質状を呈する。中孔に富み、管状斑に富む。可塑性・粘着性ともに強

代表的断面形態

所在地 山越郡八雲町野田生 試坑№ Y 8

第1層	0~16cm	腐植含む鈍黄褐 (10YR4/3) のSL、弱度の塊状構造、糸根状斑わずかに含む。 可塑性・粘着性弱、ち密度は疎、PH (H ₂ O) 5.2、湿り半湿、層界明瞭
第2層	16~23	腐植含むオリーブ黒 (5Y3/2) のSL、弱度の塊状構造、可塑性・粘着性弱、 ち密度は疎、湿り湿、層界明瞭
第3層	23~43	灰白 (10YR8/2) のSよりなる浮石砂礫層、雲状斑含む。湿り湿、層界明瞭
第4層	43~46	腐植含む黒褐 (10YR2/2) のCL (触感)、弱度の細塊状構造、雲状斑含む。 可塑性・粘着性やや強、ち密度は疎、湿り湿、層界明瞭
第5層	46~	灰黄褐 (10YR4/2) のC (触感)、無構造で均質状、中孔に富み、管状斑含む。 可塑性・粘着性强、ち密度は疎、湿り湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~16	2.2	51.9	27.5	13.2	7.4	S L			1.73	0.11	15.7	2.9

層位	pH		置換酸 度 Y1	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				石灰飽和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態 酸 mg/ 100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O				
1	5.2	4.5	3.1	8.6	3.2	1.3	0.6		37.2	46.4	15.1

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統には上八雲統があるが堆積様式、腐植含量が異なるので区分した。

A-3 母 材

非固結火成岩 / 非固結水成岩

A-4 堆積様式

風積 (火山性) / 水積 (河成)

B 地 形

河川流域の低平地

C 気 候

年平均気温 7.8℃ 年降水量 1,156mm

D 植生及び利用状況

畑・水田となっている。

E 農業上の留意事項

排水完備、深耕、有機物施用、酸性矯正

F 分 布

北海道山越郡八雲町野田追川・落部川流域の低地

調査及び記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

昭和47年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡略分級式
落部 — 落部	II twfni

② 土壌区別説明

落部統 — 落部区

示性分級式 (畑)

土 壤 生 産 力 の 可 能 性 等 級	表 土 層 の 厚 さ	表 土 層 の 粘 着 性	耕 起 の 容 易 性	表 土 の 風 乾 性	土 地 の 乾 湿 度	透 水 性	保 水 性	自 然 肥 沃 度	固 定 力	養 分 状 態	置 換 性	石 灰 量	苦 味	有 機 質 含 量	微 酸 性	障 害 有 無	物 理 的 障 害 有 無	災 害 危 険 度	地 冠 水 の 危 険 度	傾 斜 度	自 然 傾 斜	人 為 傾 斜	耐 侵 蝕 性	耐 風 蝕 性			
t d g p	w	f	n	i	a	s	e																				
II	I	I	I	I	I	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	II	1	2	I	1	1	I	1	—	I	1	1
簡略分級式 II twfni																											

A 土壌区の特徴

この土壌区は落部統に属する。表土は20~25cmでやや浅く、有効土層1m以上で深い。表土の土性は中位質で耕起・碎土は容易である。透水性中、保水性中で台地からの滲透水の影響で湿地となっている。保肥力中、固定力極小、塩基状態中で肥沃度は中位、養分は石灰が少ないほかは多いが強酸性を呈する。浮石層があり障害となっている。

B 植生及び利用状況

畑・水田となっている。

C 地力保全上の問題点

台地からの滲透水で過湿となっている。排水設備を完全にすることが必要である。作土が浅く、かつ腐植が少ないので完熟した堆きゅう肥等有機物を施用しながら深耕すること。強酸性を呈するので炭カルを300Kg/10a施用して中和すること。

D 分 布

北海道山越郡八雲町野田追川、落部川流域の低地

記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

昭和47年3月31日

大 新 統

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ30cm前後で腐植含量5%内外、土性はSLを主とする。色は10YRで明度3、彩度2~3、弱度の粒状構造、可塑性・粘着性ともに欠く、ち密度2.0前後で中、pH(H₂O)6前後、層界は平坦である。(K-d)

第2層は厚さ15cm前後で腐植含量2.0%前後、土性はCLを主とする。色は10YRで明度1、彩度1、弱度と塊状構造で細孔に頗る富み小孔に富む。可塑性・粘着性ともに強、ち密度2.0前後で中、pH(H₂O)6前後、層界は判然である。

第3層は厚さ10cm前後で腐植含量1.0%内外、土性はCLを主とする。色は10YRで明度2、彩度3、弱度の細粒状構造と塊状構造、細小孔に頗る富む。可塑性・粘着性ともに強、ち密度2.0前後で中、pH(H₂O)6前後、層界は判然である。

第4層は概ね5.5cm以下で腐植含量5%内外、土性はCLを主とする。色は10YRで明度4~5、彩度6、中度の細塊状構造と弱度の塊状構造、細孔に頗る富む。可塑性・粘着性ともに強、ち密度2.0前後で中、pH(H₂O)6前後

代表的断面形態

所在地 山越郡八雲町大新 試坑No Y-14

第1層	0~31cm	腐植含む黒褐(10YR3/2)のSL、弱度の粒状構造、可塑性・粘着性欠く、ち密度2.2で中、pH(H ₂ O)6.3、湿り半乾、層界明瞭
第2層	31~44	腐植頗る富む黒(10YR1/1)のCL、弱度の塊状構造、細孔頗る富み小孔富む。可塑性・粘着性强、ち密度1.9で中、pH(H ₂ O)6.1、湿り半湿、層界判然
第3層	44~55	腐植富む黒(10YR2/3)のCL(触感)、弱度の細粒状・細塊状構造、細小孔頗る富む。可塑性・粘着性强、ち密度2.0で中、pH(H ₂ O)6.1、湿り半湿、層界判然
第4層	55~	腐植富む褐(10YR4/6)のCL(触感)、中度の細塊状構造と弱度の塊状構造、細小孔富む。可塑性・粘着性强、ち密度2.0で中、pH(H ₂ O)6.0、湿り半湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				※ 土 性	現地容積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~31	2.8	54.1	23.8	13.3	8.8	SL			2.85	0.15	19.0	4.8
2	31~44	11.3	5.3	33.7	44.4	16.6	CL			14.77	0.61	24.2	22.7
3	44~55	13.9	3.6	61.1	28.4	6.9	L (CL)			9.20	0.59	15.6	13.7
4	55~	14.4	7.3	70.0	22.7	0.0	SL (CL)			4.51	0.27	16.7	6.7

層位	pH		置換酸度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.3	5.4	0.8	9.1	5.6	0.9	0.3	61.5	61.5	19.6
2	6.1	5.1	1.3	57.9	31.3	2.9	0.6	54.1	228.3	5.9
3	6.1	4.9	1.3	45.7	10.2	2.2	0.9	22.3	264.0	5.6
4	6.0	5.1	1.6	24.3	4.9	1.3	0.1	20.2	248.6	4.6

※ 土性 () 内は農学会触感による。

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては桜野統、鉛川統があるが、いずれも土層内に礫層が存在するため区分した。

A-3 母材

非固結火成岩 / 非固結水成岩

A-4 堆積様式

風積 (火山性) / 水積 (扇状堆土)

B 地形

ほぼ平坦な扇状地

C 気候

年平均気温 7.8℃ 年降水量 1,156mm

D 植生及び利用状況

殆んどが畑地・草地である。

E 農業上の留意事項

混層耕、塩基の補給

F 分布

北海道山越郡八雲町大新の大部分

調査及び記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

昭和47年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡略分級式
大新 — 大新	II _n

② 土壌区別説明

大新統 — 大新区

前後、層界は明瞭である。(K-a)

第2層は厚さ15cm前後で腐植含量15%内外、土性はCLを主とする。色は10YRで明度1、彩度1、発達中～強度の細粒状構造で細孔に頗る富む。可塑性中、粘着性やや強ち密度23前後で中、pH(H₂O)5～5.5、層界は判然である。

第3層は厚さ5cm前後で腐植含量8%内外、土性はCLを主とする。色は10YRで明度2、彩度2～3、弱度の細塊状構造で細孔に富む。可塑性・粘着性ともにやや強、ち密度20前後で中、pH(H₂O)5～5.5、層界は判然である。

第4層は厚さ5～7cmで腐植含量2%内外、土性はCLを主とする。色は10YRで明度4～5、彩度4、弱度の塊状構造で細孔に富む。可塑性・粘着性ともに大、ち密度18前後で疎、pH(H₂O)5～5.5、層界は明瞭である。

第5層は概ね50cm以下で小半角礫よりなる礫層である。

代表的断面形態

所在地 山越郡八雲町磯野 試坑No. Y-4

第1層	0～22cm	腐植含む黒褐(10YR3/2)のSL、弱度の細粒状構造、可塑性・粘着性弱、ち密度14で疎、pH(H ₂ O)5.5、湿り半乾、層界明瞭
第2層	22～37	腐植頗る富む黒(10YR1/1)のCL(触感)、中～強度の細粒状構造、細孔頗る富む。可塑性中、粘着性やや強、ち密度24で中、pH(H ₂ O)5.2、湿り半湿、層界判然、
第3層	37～43	腐植富む黒褐(10YR2/2)のCL、中度の細塊状構造、細孔富む。可塑性・粘着性やや強、ち密度21で中、pH(H ₂ O)5.3(次層とも)、湿り半湿、層界判然
第4層	43～50	腐植欠く鈍黄褐(10YR5/4)のCL、弱度の塊状構造、細孔富む。可塑性・粘着性强、ち密度17で疎、湿り半湿、層界明瞭
第5層	50～	黄褐(10YR5/6)の小半角礫よりなる礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土							
1	0～22	1.9	61.4	22.0	12.8	3.8	SL			2.05	0.12	17.1	3.5
2	22～37	15.0	4.9	47.6	39.0	8.5	L			12.52	0.80	15.7	18.4
3	37～50	5.4	13.5	32.9	33.8	19.8	CL			2.08	0.13	16.0	3.4

層位	pH		置換酸 度Y1	塩基置換 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 効 磷 酸 mg/ 100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.5	4.6	2.4	7.5	2.4	1.3	0.4	3.20	2.53	3.58
2	5.2	4.5	5.3	34.6	4.9	0.7	0.7	1.42	2.533	2.0
3	5.3	4.4	8.8	17.3	4.5	1.4	1.0	2.60	1.391	1.4

A 土壤区の特徴

この土壤区は桜野統に属する。表土は40cm前後で深く、有効土層50cm前後で中、表土の土性中粒質で耕起・砕土は容易、透水性大、保水性中で過湿・過乾のおそれは少ない。保肥力中、固定力ごく小、塩基状態不良で肥沃度は中位、養分はいづれも多めである。強酸性を呈する。傾斜5°前後の扇状地である。

B 植生及び利用状況

概ね畑地である。

C 地力保全上の問題点

作土が浅く、かつ表土は保肥力が小さいから深耕もしくは40cm前後の混層耕が望ましい。その場合下層土の固定力が大きいから熔燐、堆きゅう肥、炭カル等の土改質材の投入を要する。苦土・加里等は特に不足しがちであるから増肥のこと。

D 分 布

北海道山越郡八雲町野田追川の流域

記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

昭和47年3月31日

鉛 川 統

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量5%内外、土性はSLを主とする。色は10YRで明度3、彩度2~3、弱度の粒状構造で可塑性・粘着性ともに弱、ち密度20前後で中、pH(H₂O)6前後、層界は明瞭である。(K-a)

第2層は厚さ10cm前後で腐植含量3~4%、土性はCLを主とする。色は10YRで明度4、彩度4、弱度の細粒状構造で塊状構造で細孔に富み小孔を含む。可塑性・粘着性ともにやや強、ち密度18前後で疎、pH(H₂O)6~6.5、層界は明瞭である。

第3層は厚さ7cm前後で腐植を欠き、土性はLを主とする。小~中半角礫に頗る富む。色は10YRで明度4、彩度6、無構造を呈する。ち密度は密、層界は明瞭である。

第4層は厚さ8cm前後で腐植を欠き土性SとLの互層、小半角礫に富む。色は10YRで明度5、彩度4、弱度の塊状構造で細孔を含む。ち密度は疎、層界は明瞭である。

第5層は概ね45cm以下で中半角礫よりなる礫層である。

代表的断面形態

所在地 山越郡八雲町立岩 試坑No Y-20

第1層	0~20cm	腐植富む黒褐(10YR3/2)のSL、弱度の粒状構造、可塑性・粘着性弱、ち密
-----	--------	--

		度中、pH (H ₂ O) 6.1、湿り半乾、層界明瞭
第2層	20~31	腐植含む褐 (10YR4/4) のCL (触感)、弱度の細粒状構造と塊状構造、細孔富み小孔含む。可塑性・粘着性やや強、ち密度疎、pH (H ₂ O) 6.3、湿り半湿、層界明瞭
第3層	31~38	小~中半角礫に頗る富む褐 (10YR4/6) のL、無構造、ち密度中、層界明瞭
第4層	38~46	中半角礫に富む鈍黄褐 (10YR5/6) のSとLの互層、ち密度疎、湿り半湿、層界明瞭
第5層	46~	中半角礫よりなる礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土							
1	0~20	4.2	41.2	31.8	16.7	10.3	S L			2.65	0.21	12.6	4.4
2	20~31	9.1	7.7	58.9	27.2	6.2	S L			2.21	0.15	14.7	3.5

層位	pH		置換酸 度 Y1	塩基置換 容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	燐 酸 吸 収 係 数	有 効 態 燐 酸 mg/ 100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.1	5.2	1.8	15.5	11.9	2.3	0.1	76.8	821	14.6
2	6.3	4.9	1.5	48.8	36.5	5.9	0.2	74.8	1852	3.3

A-1 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統として桜野統があるが本統とは堆積状態が異なるので区分した。

A-3 母 材

非固結火成岩 / 非固結水成岩

A-4 堆積様式

風積 (火山性) / 水積 (扇状堆土)

B 地 形

傾斜5°前後の扇状地

C 気 候

年平均気温 7.8℃ 年降水量 1,156mm

D 植生及び利用状況

概ね畑地・草地である。

E 農業上の留意事項

深耕、有機物施用、塩基の補給

F 分 布

北海道山越部八雲町遊楽部川・鉛川の流域

調査及び記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

昭和47年3月31日

山 越 統

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25cm前後で腐植含量5~7%、土性はSLを主とする。色は10YRで明度2、彩度2、弱度の粒状構造で可塑性・粘着性をともに欠く、ち密度は疎、pH(H₂O)5.5前後、層界は明瞭である。

第2層は厚さ10~15cmで浮石砂礫層である。層界は明瞭である。(以上K-d)

第3層は厚さ10cm前後で腐植含量12%内外、土性はCLを主とする。色は7.5~10YRで明度1、彩度1、弱度の細塊状構造で可塑性・粘着性ともに強、脈状斑に富む。ち密度1.5前後で疎、pH(H₂O)5~5.5、層界は判然である。

第4層は厚さ15cm前後で腐植含量8%内外、土性はCLを主とする。色は7.5~10YRで明度2、彩度1~2、弱度の塊状構造で可塑性・粘着性ともに強、脈状斑に富む。ち密度1.5前後で疎、pH(H₂O)5前後、層界は判然である。

第5層は概ね60cm以下で腐植を欠き土性はCを主とする。色は10YRで明度5~6、彩度3~4、無構造で均質状を呈する。可塑性・粘着性ともに強、脈状斑を含む。ち密度1.5前後で疎

代表的断面形態

所在地 山越郡八雲町熱田 試坑No. Y-12

第1層	0~25cm	腐植富む黒褐(10YR2/2)のSL、弱度の粒状構造、ち密度疎、pH(H ₂ O)5.5、湿り半湿、層界明瞭
第2層	25~37	灰白(10YR7/2)の浮石砂礫層、雲状斑富む。湿り湿、層界明瞭
第3層	37~45	腐植頗る富む黒(7.5YR1/1)のSiCL、弱度の細塊状構造、脈状斑富む、可塑性・粘着性强、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)5.3、湿り湿、層界判然
第4層	45~60	腐植富む黒(7.5YR2/1)のSiC、弱度の塊状構造、脈状斑に富む。可塑性・粘着性强、ち密度疎、pH(H ₂ O)5.1、湿り湿、層界判然
第5層	60~	鈍黄橙(10YR6/3)のC、無構造で均質状、中孔あり、脈状斑含む。可塑性・粘着性强、ち密度疎、湿り湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土							
1	0~25	2.3	62.2	22.7	11.1	4.0	S			3.00	0.19	15.8	5.1
2	37~45	8.3	3.9	26.5	45.8	23.8	SiCL			7.51	0.49	15.3	11.9
3	45~60	11.1	0.8	15.6	48.6	35.0	SiC			5.43	0.25	21.7	8.4

層位	pH		置換酸度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態リン酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.5	4.7	1.9	10.2	3.4	1.9	0.3	33.3	377	60.9
2	5.3	4.3	6.3	34.9	8.0	2.9	1.2	22.9	1119	12.0
3	5.1	4.0	20.0	41.0	8.9	3.3	1.8	21.7	1712	11.8

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統には八雲北統があるが、堆積状態が異なるので区分した。

A-3 母材

非固結火成岩 / 非固定水成岩

A-4 堆積様式

風積（火山性）/ 水積（扇状堆土）

B 地形

段丘下の扇状地

C 気候

年平均気温 7.8℃ 年降水量 1156mm

D 植生及び利用状況

畑地・草地で一部水田となっている。

E 農業上の留意事項

排水完備、有機物施用、塩基の補給

F 分布

北海道山越郡八雲町、熱田、山越

調査及び記載責任者 宮脇 忠 （北海道立中央農業試験場）

昭和47年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡略分級式
山越 — 山越	II tw f n i a

② 土壌区別説明

山越統 — 山越区

示性分級式 (畑)

土壌生産力可能性等級	表土の層の厚さ	有効土の層の深さ	耕起の難易	表土の粘着性	表土の乾しさ	土の透水性	地保湿度	自然保肥力	自保固塩基状態	養分交換の豊富性	置換の苦味	有効態量	微酸燐要素度	障害物質の有害性	物理的障害の無性	災害の危険度	増冠水の危険度	地すべりの危険度	傾斜	自然の傾斜	人為的傾斜	耐水性	耐風蝕性											
t d g p				w		f		n				i	a	s	e																			
II	II	II	II	1	1	(2)	II	2	2	2	II	2	1	3	II	3	1	2	1	1	2	II	1	2	II	2	1	I	1	—	I	1	2	2
簡略分級式 II twfnia																																		

A 土壤区の特徴

この土壤区は山越統に属する。表土は20~25cmでやや浅く、有効土層1m以上で深い。表土の土性は中位質で耕起・砕土は容易である。透水性・保水性とも中であるが排水状態悪く過湿となっている。保肥力中、固定力ごく小、塩基状態不良で肥沃度は中位、養分は加里、石灰等に不足している。一時的に冠水のおそれがある。

B 植生及び利用状況

畑地・草地で一部に水田もある。

C 地力保全上の問題点

排水することが急務であるが、狭長に分布しているため、また地形的にむづかしいであろう。従って採草地にするなどの利用状況を変える必要がある。堆きゅう肥等の有機物を施用し、また塩基分に乏しくかつ不足しがちであるから増肥することが望ましい。

D 分布

北海道山越郡八雲町熱田、山越

記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

昭和47年3月31日

八 雲 北 統

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25cm前後で腐植含量4%内外、小半角礫に富み、土性SLを主とする。色は10YRで明度4、彩度3、弱度の塊状構造、可塑性・粘着性ともにやや弱、ち密度は疎、pH(H₂O)5.5前後、層界は明瞭である。(K-d、客土済)

第2層は厚さ10cm前後で腐植含量15~20%、土性Cを主とする。色は10YRで明度2、彩度2、無構造で均質状を呈す。可塑性・粘着性ともに強、ち密度は疎、pH(H₂O)5~5.5、層界は明瞭である。

第3層は厚さ5cm前後で腐植を欠き、土性はCを主とする。色は5GYで明度6、彩度1、無構造で均質状を呈す。可塑性・粘着性ともに強、ち密度は疎、pH(H₂O)5~5.5、層界は明瞭である。

第4層は厚さ5cm前後で腐植含量7%内外、土性はCを主とする。色は10YRで明度3、彩度1~2、無構造で均質状を呈す。可塑性・粘着性ともに強、ち密度は疎、pH(H₂O)5~5.5、層界は明瞭である。

第5層は概ね4.5cm以下で腐植を欠き土性Cを主とする。色は5Gで明度5、彩度1、無構造で均質状を呈す。可塑性・粘着性ともに強、pH(H₂O)5~5.5

代表的断面形態

所在地 山越郡八雲町花浦 試坑No Y-22

第1層	0~21cm	腐植含み小半角礫含む鈍黄褐(10YR4/3)のSL、弱度の塊状構造、可塑性・粘着性弱、ち密度は疎、pH(H ₂ O)5.5、湿り半湿、層界明瞭
第2層	21~23	鈍黄橙(10YR7/3)の浮石砂層
第3層	23~33	腐植頗る富む黒褐(10YR2/2)のSic、無構造で均質状、可塑性・粘着性强、ち密度は疎、pH(H ₂ O)5.3、湿り湿、層界明瞭
第4層	33~39	オリーブ灰(5GY6/1)のSic、無構造で均質状、可塑性・粘着性强、ち密度疎、pH(H ₂ O)5.2、湿り湿、層界明瞭
第5層	39~44	腐植富む黒褐(10YR3/1)のSic、無構造で均質状、可塑性・粘着性强、ち密度疎、pH(H ₂ O)5.4(次層とも)、湿り湿、層界明瞭
第6層	44~	緑灰(5G5/1)のSic、無構造で均質状、可塑性・粘着性强、湿り湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地容積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~21	4.6	36.1	30.2	21.9	11.8	SL			2.68	0.17	15.8	4.4
2	23~33	10.4	2.9	11.4	51.5	34.2	Sic			17.60	1.31	13.4	27.4
3	33~39	9.1	0.3	17.5	51.5	30.7	Sic			—	—	—	—
4	44~	8.2	0.3	17.9	49.1	32.7	Sic			—	—	—	—

層位	P H		置換酸度 Y 1	塩基置換容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g				石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 効 速 効 磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O				
1	5.5	4.6	4.9	16.1	7.5	5.7	0.4		46.6	761	13.1
2	5.3	4.6	17.5	54.7	19.0	8.6	0.2		34.7	1888	1.1
3	5.2	4.1	10.0	41.1	17.6	8.8	0.2		42.8	1551	0.8
4	5.4	4.2	1.9	42.3	17.9	12.6	0.1		42.3	205	0.8

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統として山越統があるが、堆積状態を異にし、かつグライ層の有無により区分した。

A-3 母 材

非固結火成岩 / 非固結水成岩

A-4 堆積様式

風積（火山性）/ 水積（扇状堆土）

B 地 形

3°前後の扇状低地

C 気 候

年平均気温 7.8℃ 年降水量 1,156mm

D 植生及び利用状況

畑地・草地で一部水田となっている。

E 農業上の留意事項

排水完備、深耕、有機物施用、酸性矯正、塩基の補給

F 分 布

北海道山越郡八雲町花浦、山崎の一部

調査及び記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

昭和47年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
八雲北一八雲北	UwUgfa

② 土壌区別説明

八雲北統 — 八雲北区

示性分級式 (畑)

土壌	表土	表土	耕土	(表土)	(表土)	(土)	(自)	(養)	(置)	(有)	(障)	(災)	(傾)	(侵)																							
生産力	幼土	土の層	土の層	土の粘着性	土の乾性	水の潤性	水の潤性	肥力	固定力	塩基状態	石灰土	有害物質	物理的障害	増冠水の危険度	地すべりの危険度	自然の傾斜	人為的傾斜	耐風蝕	耐水蝕																		
可能性等級	厚さ	深さ	量	易	(湿)	(度)	(度)	(否)	(否)	(否)	(否)	(性)	(性)	(性)	(性)	(斜)	(斜)	(蝕)	(蝕)	(度)	(性)																
	t	d	g	p		w		f		n			i		a		s			e																	
簡略分級式	III	I	I	II	I	1	1	(2)	III	2	2	3	II	2	2	2	II	1	1	1	1	1	3	I	1	1	II	2	1	I	1	—	—	I	1	1	1
簡略分級式	III _w II _g fna																																				

A 土壤区の特徴

この土壤区は八雲北統に属する。表土は30cm前後で深く、有効土層1m以上で深い。表土の土性は中粒質で耕起・砕土は容易、透水性・保水性とも中で排水極めて不良である。保肥力中、固定力小、塩基状態中で肥沃度は中位、養肥分はどれも多め〜中で強酸性を呈す。豪雨時には一時的に冠水する。

B 植生及び利用状況

畑地・草地で一部水田

C 地力保全上の問題点

泥炭地に近接し、かつ地下水、滲透水などにより排水は極めて悪いので泥炭地も含め組織的に排水施設を設けること。台地際に補水溝を設けるのも効果的である。一般に作土が浅いので深耕し、十分に堆きゅう肥を施用すべきである。強酸性を呈しているから炭カル(500g/10a)で矯正すること。

D 分布

北海道山越郡八雲町花浦、山崎の一部

記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

昭和47年3月31日

花 浦 統

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20~25cmで腐植含量10%内外、土性はSLを主とする。色は10YRで明

度 3~4、彩度 4、弱度の塊状構造でち密度は疎である。pH (H₂O) 6 前後、層界は明瞭である。(客土、K-d)

第 2 層は厚さ 15~20 cm で腐植を欠く浮石砂層 (K-d)

第 3 層は厚さ 35 cm 前後でヨシ・ハンノキを主構成植物とする低位泥炭で泥土を混入する。H 4 で分解やや良、pH (H₂O) 4.5~5

第 4 層は概ね 75 cm 以下で土性は S を主とする。色は 5Y で明度 4、彩度 2、無構造で単粒状を呈する。

代表的断面形態

所在地 山越郡八雲町花浦 試坑 No Y-23

第 1 層	0~23cm	腐植富む暗褐 (10 YR 4/3) の CL、弱度の塊状構造、ち密度は疎、pH (H ₂ O) 5.9、湿り湿、層界明瞭
第 2 層	23~40	灰白 (10 YR 8/2) の浮石層、湿り湿、層界明瞭
第 3 層	40~75	極暗赤褐 (5 YR 2/3) のヨシ、ハンノキを主とする低位泥炭で泥土を混入する。分解やや良、pH (H ₂ O) 4.7、湿り潤、層界明瞭
第 4 層	75~	灰オリーブ (5 Y 4/2) の S、無構造、湿り潤

代表的断面の分析成績

層位	採取部 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~23	6.5	19.6	29.6	33.0	17.7	CL			7.11	0.58	12.3	11.5
2	40~73	11.8					LP			—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度 Y 1	塩基置換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g				石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O				
1	5.9	4.8	7.5	28.2	15.6	4.5	0.2		55.3	1398	1.4
2	4.7	4.0	1.3	65.8	12.8	5.7	0.1		19.0	552	1.5

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統にはわしのす統があるが、堆積状態を異にするので区分した。

A-3 母 材

非固結火成岩 / 低位泥炭 (ヨシ・ハンノキ・スゲ)

A-4 堆積様式

風積 (火山性) / 集積

B 地 形

低平地

C 気 候

年平均気温 7.8℃

年降水量 1,156 mm

D 植主及び利用状況

概ね畑地・草地

E 農業上の留意事項

排水完備、有機物の施用、塩基の補給

F 分 布

北海道山越郡八雲町花浦、山崎の一部

調査及び記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

昭和47年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
花浦 — 花浦	III _w nII _t fia

② 土壌区別説明

花浦統 — 花浦区

示性分級式 (畑)

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	表土の粘着性	表土の風乾性	土の透水性	自保潤肥度	養分固定率	位置換の性質	有微酸	障	災	傾	侵
t d g P		w	f	n				i	a	e	e	
II I I I 2 1 1	III 2 2 3	II 1 2 2	III 1 1 3 3 1 3	II 1 2	II 2 1	I 1	— —	I 1 1 1				
簡略分級式 III _w nII _t fia												

A 土壌区の特徴

この土壌区は花浦統に属する。表土は20~25cmでやや浅く、有効土層1m以上で深い。表土の土性は細粒質で耕起・砕土は容易、透水性・保水性中で排水は不良である。保肥力大、固定力小、塩基状態中で肥沃度は中位、加里・磷酸に乏しく強酸性を呈す。豪雨時には一時的に冠水する。

B 植主及び利用状況

概ね畑地・草地

C 地力保全上の問題点

まず排水を完全にすること。周辺の泥炭地も含め組織的に行なり必要がある。有機物を施用し地力を高めること。磷酸、加里が不足しているから増肥が望ましい。

D 分 布

北海道山越郡八雲町花浦、山崎の一部

記載責任者

宮脇 忠

(北海道立中央農業試験場)

昭和47年3月31日

わ し す の 統

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25cm前後で腐植含量5%内外、土性はSLを主とする。色は7.5~10YRで明度3、彩度2、弱度の塊状構造で可塑性・粘着性をともに欠く、ち密度は疎である。pH(H2O)6.5前後、層界は明瞭である。(K-d)

第2層は厚さ5cmでヨシを主とする低位泥炭、色は7.5~10YRで明度2~3、彩度1、分解は良である。層界は明瞭である。

第3層は厚さ3cm前後で火山砂層、色は7.5~10YRで明度4、彩度4、pH(H2O)5前後、層界は明瞭である。(K-e)

第4層は厚さ50cm前後でヨシを主とし、ハンノキを混じえた低位泥炭、色は7.5YRで明度2~3、彩度2、分解は不良である。pH(H2O)4~4.5、層界は明瞭である。

第5層は概ね90cm以下で泥土を多量に混入するヨシを主とした亜泥炭、色は7.5YRで明度4、彩度2

代表的断面形態

所在地 山越郡八雲町立岩 試坑No Y-21

第1層	0~26cm	腐植含む黒褐(7.5YR3/2)のSL、弱度の塊状構造、ち密度疎、pH(H2O)6.4、湿り湿、層界明瞭
第2層	26~32	黒(7.5YR2/1)のヨシを主とする低位泥炭、分解良、pH(H2O)5.0、湿り湿 層界明瞭
第3層	32~35	褐(7.5YR4/4)の火山砂層、湿り湿、層界明瞭
第4層	35~89	黒褐(7.5YR2~3/2)のヨシを主とする低位泥炭、分解やや不良、pH(H2O)4.3、湿り潤、層界明瞭
第5層	89~	灰黄褐(7.5YR4/2)のヨシに多量の泥土を混入する亜泥炭、湿り潤

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~26	1.6	58.1	23.9	11.8	6.2	SL	91.4		2.85	0.16	17.8	4.9
2	26~32	8.5					LP	—		—	—	—	—
3	35~89	13.0					LP	17.3		—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O				
1	6.4	5.8	0.6	4.5	3.5	0.7	0.0		77.8	461	14.2
2	5.0	4.3	12.7	27.1	2.2	1.9	0.1		8.1	990	3.7
3	4.3	3.9	31.3	68.9	3.4	4.0	0.1		4.9	462	4.4

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては花浦統があるが、堆積状態が異なるので区分した。

A-3 母材

非固結火成岩 / 低位泥炭 (ヨシ)

A-4 堆積様式

風積 (火山性) / 集積

B 地形

低平地

C 気候

年平均気温 7.8℃ 年降水量 1,156mm

D 植生及び利用状況

概ね草地となっている。

E 農業上の留意事項

排水完備、有機物施用、塩基の補給

F 分布

北海道山越郡八雲町花浦、山崎、黒岩の一部

調査及び記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

昭和47年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡略分級式
わしのす - わしのす	III wf Ina

② 土壌区別説明

わしのす統 - わしのす区

示性分級式 (畑)

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	耕土の難易	表土の風乾の硬さ	表土の粘着性	土壌透水性	自然保湿度	自肥力	固肥力	養分塩基状態	置換性	苦土量	加磷要	微酸	有害物質の無性	物理的障害の有無	増冠水の危険度	地すべりの危険度	傾斜の方向	人為的傾斜	侵蝕度	耐水性	耐風蝕性										
Ⅲ	I	I	I	I	I	I	Ⅲ	2	2	Ⅲ	3	1	3	Ⅱ	3	2	3	1	1	I	1	1	Ⅱ	2	1	I	1	—	—	I	1	1	1
簡略分級式 Ⅲ _w fⅡna																																	

A 土壤区の特徴

この土壤区はわしのす統に属する。表土は25～30cmで深く、有効土層1m以上で深い。表土の土性中粒質で耕起・砕土は容易。排水不良の泥炭地である。

保肥力小、塩基状態不良で肥沃度は低い。養分はいずれも少なめである。豪雨時には一時的に冠水する。

B 植生及び利用状況

概ね草地となっている。

C 地力保全上の問題点

暗渠などがすでに入っているが、排水は未だ完全でない。周辺地区を含め組織的に排水諸施設の工事を行なうこと。有機物を施用し地力を高めることが大切である。塩基類にも不足しているから増肥すること。

D 分布

北海道山越郡八雲町花浦、山崎、黒岩の一部

記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

昭和47年3月31日

山 崎 統

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後で腐植含量10%内外、土性はSLを主とする。色は7.5YRで明度2、彩度2、病度の現状構造で可溶性・粘着性ともに弱、脈状斑を含む。ち密度は疎、pH(H₂O)6.5前後、層界は明瞭である。(K-d)

第2層は厚さ15cm前後でヨシ・ヌマガヤを主とする中間泥炭、分解やや不良、色は7.5 Y Rで明度1～2、彩度1、pH (H₂O) 5.5前後、層界は明瞭である。

第3層は厚さ25cm前後でヨシ・ヌマガヤを主とする中間泥炭、分解やや不良、色は5 Y Rで明度3、彩度1、pH (H₂O) 4.5前後、層界は明瞭である。

第4層は概ね55cm以下でヌマガヤ・ヨシにツルコケモモ・ミズゴケを混入する中間泥炭、分解不良、色は5 Y Rで明度2、彩度3

代表的断面形態

所在地 山越郡八雲町山崎 試坑No Y-31

第1層	0~15cm	腐植富む黒褐 (7.5YR2/2) のSL、弱度の塊状構造、可塑性・粘着性弱、脈状斑含む。ち密度疎、pH (H ₂ O) 6.6、湿り湿、層界明瞭
第2層	15~30	黒 (7.5YR2/1) のヨシ・ヌマガヤを主とする中間泥炭、分解やや不良、pH (H ₂ O) 5.4、湿り湿、層界明瞭
第3層	30~53	黒褐5 Y R3/1) のヨシ・ヌマガヤを主とする中間泥炭、分解やや不良、pH (H ₂ O) 4.6、湿り潤、層界明瞭
第4層	53~	極暗赤褐 (5 Y R2/3) のヨシ・ヌマガヤにミズゴケ・ツルコケモモを混入する中間泥炭、分解不良、湿り潤

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	3.0	51.0	28.4	16.7	3.9	SL			63.6	0.40	15.9	10.7
2	15~30	10.2	—	—	—	—	TP			—	—	—	—
3	30~53	13.1	—	—	—	—	TP			—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y 1	塩基置換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g				石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O				
1	6.6	6.0	2.4	15.3	12.8	1.4	0.2		83.7	662	15.5
2	5.4	4.8	18.5	55.7	21.7	7.4	1.0		39.0	377	4.7
3	4.6	4.1		73.1	13.2	4.9	0.9		18.1	438	9.0

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統にはわしのす統があるが、泥炭中の構成植物が異なるので区分した。

A-3 母 材

非固結火成岩 / 中間泥炭 (ヨシ・ヌマガヤ)

A-4 堆積様式

風積 (火山性) / 集積

B 地 形

低平地

C 気 候

年平均気温 7.8℃ 年降水量 1,156mm

D 植生及び利用状況

概ね草地となっている。

E 農業上の留意事項

排水完備、深耕、有機物施用、塩基の補給、酸性矯正

F 分 布

北海道山越郡八雲町山崎、花浦の一部

調査及び記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

昭和47年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡略分級式
山崎 — 山崎	III ^w II ^f na

② 土壌区別説明

山崎統 — 山崎区

示性分級式 (畑)

土壌生産力の可能性等級	表土の厚さ	耕起の容易さ	表土の粘着性	表土の風乾の硬さ	土壌の透水性	土壌の保肥力	土壌の固着性	土壌の置換性	有機物の量	微酸性	障害物質の有害性	物理的障害の無性	炎の冠水の危険度	地すべりの危険度	傾斜の方向	人為的傾斜	耐水性	風蝕性
t d g p	w	f	n	i	a	S	e											
III I I I I 1 1 (2)	III 2 1 3	II 2 1 2	II 1 1 3 1 1 2	I 1 1	II 2 1	I 1	— I 1 1 1											
簡略分級式 III ^w II ^f na																		

A 土壌区の特徴

この土壌区は山崎統に属する。表土は30cm前後で深く、有効土層1m以上で深い。表土の土性中粒質で耕起・砕土は容易。排水不良の泥炭地である。

保肥力中、塩基状態で肥沃度は中位、養分は加里に乏しい。豪雨時には一時的に冠水する。

B 植生及び利用状況

概ね草地となっている。

C 地力保全上の問題点

未だ排水が不十分であるから周辺地区を合わせ完全にすることがある。作土が一般に浅いので深耕すること。また下層土が強酸性を呈するので炭カルで矯正すること。有機物を施用し地力の維持増進につとめること。加里が不足しているから増肥すべきである。

D 分 布

北海道山越郡八雲町山崎、花浦の一部

記載責任者 宮崎 忠 (北海道立中央農業試験場)

昭和47年3月31日

わらび野統

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量3%内外、中円礫に富み土性はSLを主とする。色は10YRで明度3~4、彩度3~4、発達弱度の細粒状構造で可溶性・粘着性ともに弱、ち密度は疎、pH(H₂O) 5.5~6.0、層界は明瞭である。

第2層は概ね20cm以下で小~中円礫まれに大円礫をまじえ、粗砂を充填した礫層である。

代表的断面形態

所在地 山越郡八雲町春日 試坑No Y-24

第1層	0~20cm	腐植含み中円礫に富む鈍黄褐(10YR4/3)のSL、弱度の細粒状構造、可溶性・粘着性弱、ち密度は疎、pH(H ₂ O) 5.8、湿り半湿、層界明瞭
第2層	20~	小中円礫よりなる礫層で礫間に粗砂を充填する。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~21	3.6	42.0	35.5	12.0	10.5	SL			1.43	0.1	14.3	2.4

層位	pH		置換酸度 Y1	塩基置換 容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g				石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O				
1	5.8	4.8	4.4	14.9	9.3	3.4	1.1		62.4	471	233

A-2 他の土壤統との関係

本統に類似する土壤統としては春日統、立岩統、黒岩北統があるが、前2統は礫層が深く、黒岩北統は堆積様式が異なるので区別される。

中、固定力ごく小、塩基状態良で肥沃度は高い。養分分はいずれも多い。

B 植生及び利用状況

畑地・草地・水田である。

C 地力保全上の問題点

礫質土壌のため出来れば客土をすること。(5m³/a)、極力堆きゅう肥等有機物を施用すべきである。養分分はいずれも多いが流亡しやすい土壌である。

D 分布

北海道山越郡八雲町、各河川流域の低平地

記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

昭和47年3月31日

春 日 統

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後で腐植含量3%内外、小円礫に富み土性はLを主とする。色は10YRで明度4、彩度3、弱度の塊状構造で可塑性・粘着性ともに弱、ち密度は2.0前後で中、pH(H₂O)5.5~6.0、層界は明瞭である。

第2層は厚さ10cm前後で浮石を主とする砂層である。層界は明瞭である。

第3層は厚さ5cm前後で腐植を欠き土性はLを主とする。色は10YRで明度5、彩度3、弱度の細粒状構造で細孔を含む。可塑性・粘着性ともに中、ち密度2.0前後で中、pH(H₂O)6.5前後、層界は明瞭である。

第4層は厚さ20cm前後の砂層で、層界は明瞭である。

第5層は概ね50cm以下で中円礫よりなる礫層、礫間に砂を充填する。

代表的断面形態

所在地 山越郡八雲町野田生 試坑No Y-5

第1層	0~15cm	腐植含み小円礫に富む鈍黄褐(10YR4/3)のSCL、弱度の塊状構造と板状構造、可塑性・粘着性弱、ち密度2.3で中、pH(H ₂ O)5.8、湿り半湿、層界明瞭
第2層	15~23	鈍黄褐(10YR5/4)の砂層、ち密度1.7で疎、湿り半乾、層界明瞭
第3層	23~30	鈍黄褐(10YR5/3)のSCL、弱度の細粒状構造、細孔含む。可塑性・粘着性中、ち密度2.1で中、pH(H ₂ O)6.7、湿り半乾、層界明瞭
第4層	30~50	砂層、ち密度1.4で疎、湿り半湿、層界明瞭
第5層	50~	中円礫よりなる礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土							
1	0~15	5.6	33.0	34.1	17.2	15.7	SCL			1.57	0.12	13.1	2.6
2	23~30	5.8	12.3	57.9	13.4	16.4	SCL			—	—	—	—

層位	pH		置換 酸度 YI	塩基置換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.8	4.5	2.0	24.8	13.2	4.8	3.8	53.2	741	6.4
2	6.7	5.5	0.6	24.2	17.2	5.5	2.0	71.1	890	14.8

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としてわらび野があるが、礫層が浅いので区分した。

A-3 母 材

非固結水成岩

A-4 堆積様式

水積（河成）

B 地 形

河川流域の低平地

C 気 候

年平均気温 7.8℃ 年降水量 1,156mm

D 植生及び利用状況

畑地・草地となっている。

E 農業上の留意事項

有機物施用、塩基の補給

F 分 布

北海道山越郡八雲町の各河川流域の低平地

調査及び記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

昭和47年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
春日 — 春日	It d g n

② 土壌区別説明

春日統 — 春日区

第3層は厚さ15cm前後で腐植を欠き土性Lを主とする。色は10YRで明度5、彩度3~4、弱度の塊状構造で細小孔に富む。可塑性・粘着性ともに中、ち密度2.0前後で中、pH(H₂O)6前後、層界は明瞭である。

第4層は概ね60cm以下で中~大円礫よりなる礫層である。

代表的断面形態

所在地 山越郡八雲町立岩 試坑No Y-15

第1層	0~23cm	腐植含む鈍黄褐(10YR4/3)のCL、弱度の塊状構造、可塑性・粘着性中、ち密度2.5で中、pH(H ₂ O)6.3、湿り半乾、層界明瞭
第2層	23~45	黄褐(10YR5/6)のSL(CLを状む)、弱度の塊状構造、細小孔に富む。可塑性・粘着性中、ち密度2.0で中、pH(H ₂ O)6.5、湿り半湿、層界明瞭
第3層	45~59	鈍黄褐(10YR5/4)のL、弱度の塊状構造、細孔頗る富み小孔に富む。可塑性・粘着性中、ち密度1.9で中、pH(H ₂ O)6.2、湿り半湿、層界明瞭
第4層	59~	中~大円礫よりなる礫層、礫間に砂を充填する。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	塊積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~23	5.9	10.0	43.5	29.1	17.4	CL			1.71	0.14	12.2	2.8
2	23~45	5.6	3.5	68.2	18.8	9.5	SL			—	—	—	—
3	45~59	5.7	17.5	47.3	22.1	13.1	L			—	—	—	—

層位	P H		置換酸 度 Y1	塩基置換 容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g				石 灰 飽和度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 効 磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O				
1	6.3	5.1	1.1	22.7	16.2	3.8	2.6		7.14	8.55	13.2
2	6.5	5.0	1.4	21.0	15.5	3.5	1.4		7.38	8.15	11.6
3	6.2	5.0	1.8	19.0	14.2	4.9	0.3		7.28	8.52	10.2

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統には春日統があるが堆積状態が異なるので区分した。

A-3 母 材

非固結水成岩

A-4 堆積様式

水積(河成)

B 地 形

河川流域の世平地

C 気 候

年平均気温 7.8℃

年降水量 1,156mm

D 植生及び利用状況

殆んどが畑地で一部水田がある。

E 農業上の留意事項

有機物の施用、塩基の補給

F 分 布

北海道山越郡八雲町遊楽部川流域の低平地

調査及び記載責任者

宮脇 忠

(北海道立中央農業試験場)

昭和47年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡略分級式
立岩 — 立岩	II t d p

② 土壌区別説明

立岩統 — 立岩区

示性分級式 (畑)

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	表土の粘着性	表土の風乾の硬さ	土の透水性	水の潤性	自然肥沃度	固定力	層分の塩基状態	置換の石灰土量	有効態の加磷量	微酸要素	障害物質の有無	物理的障害の有害性	災害の危険度	地すべりの危険度	傾斜の方向	人為的傾斜	侵入的傾斜	耐水性	耐風蝕性	
t d g p	w	f	n	i	a	S	e														
II	II	I	II	2	2	1	I	1	1	1	I	1	1	1	I	1	1	I	1	1	1
簡略分級式		II t d p																			

A 土壌区の特徴

この土壌区は立岩統に属する。表土は20~25cmでやや浅く、有効土層60~70cmで中、表土の土性細粒質で耕起・碎土にやや困難。透水性、保水性ともに大で過湿過乾のおそれは少ない。保肥力大、固定力小、塩基状態良で肥沃度は高い。いづれの養分も多い。

B 植生及び利用状況

畑地、一部に水田あり。

C 地力保全上の問題点

腐植が少ないので堆きゅう肥等有機物を施用し、地力の維持・増進に努めること。深耕の場合も同様である。

D 分 布

北海道山越郡八雲町遊楽部川流域の低平地

記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

昭和47年3月31日

茶 屋 川 統

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外、腐植含量が2~3%、土性はCLが主である。色は10YRで明度3、彩度4、粒状構造で発達程度が弱く、可塑性・粘着性ともに弱、ち密度2.4で中、pH(H₂O) 7.7前後(KCl 4.5、Y 1.9)、層界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ45cm内外で腐植含量が2%以下、土性はSである。色は10YRで明度6、彩度4、単粒状構造で可塑性・粘着性なし、ち密度は1.8で疎、中・小細孔に富む。層界は明瞭である。

第3層は地表下65cm以下で腐植含量2%以下の砂礫層。

代表的断面形態

所在地 山越都長万部町双葉 試坑No O-39

第1層	0~20cm	腐植を含む黄褐(10YR3/4)のCL、発達程度が弱の粒状構造、可塑性・粘着性ともに弱、ち密度は2.4で中、pH(H ₂ O) 7.7(KCl 4.5、Y 1.9) 湿り湿、境界平坦明瞭。
第2層	20~65	黄褐(10YR6/4)のS、単粒状構造でち密度1.8で疎、中・小細孔に富む。湿り半乾、境界平坦明瞭。
第3層	65~	黄褐の砂礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	4.4	18.3	46.2	20.3	15.2	CL	1.334	2.81	12.3	0.10	12.3	2.1

層位	pH		置換酸 度Y1	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰 飽和度 %	磷素吸收 係 数	有効態磷 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	7.7	4.5	1.9	21.3	10.3	3.8	0.3	48.4	488	17.1

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統として美畑統がある。美畑統は礫層が浅く、酸化沈積物があるため本統とは

区分される。

A-3 母材

非固結水成岩

A-4 堆積様式

水横 (河成)

B 地形

平坦

C 気候

年平均気温 7.8℃

年降水量 1,156mm

D 植生及び利用状況

馬鈴薯、ビート、牧草

E 農業上の留意事項

深耕、有機物の増施、塩基の補給

F 分布

北海道山越郡長万部町茶屋川、双葉、中の沢、豊津

八雲町黒岩

調査及び記載責任者 宮脇 忠, 山口 正栄 (北海道立中央農業試験場)

昭和47年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土壌区名	簡略分級式
茶屋川区	II t d a

② 土壌区別説明

茶屋川統 — 茶屋川区

示性分級式 (畑)

土壌生産力の可能性等級	表土の層厚さ	表土の粘着性	表土の乾燥性	土の透水性	土の保湿性	土の自然肥力	土の固保力	土層の塩基含量	土の置換性	苦土里素	有機物量	微酸	有害物質の有無	物理的障害	増冠水の危険度	地すべりの危険度	自然の傾斜方向	人為的傾斜	侵蝕度	耐風蝕性	
t d g p		w		f	n			i	a	s											e
II II II I I 2 1 1	I I 2 1 1	I I 2 1 1	I I 1 1 2	I I 1 1 2	I I 1 1 2	I I 1 1 1	I I 1 1 1	II 2 1	I 1	—	I 1 1 1										
簡略分級式 II t d a																					

A 土壌区の特徴

この土壌区は茶屋川統に属する。表土の厚さがやや浅く、有効土層が中庸である。土性が粘質、粘着性は弱で耕起・砕土が容易である。土層の塩基状態が中で自然肥沃度が高い。加里含量のみが中で他の養分の豊富は多い。なお河川流域の低地に分布しているため増冠水の危険性が若干みられる。

B 植生及び利用状況

馬鈴し、ビート、牧草

C 地力保全上の問題点

深耕、有機物の増施、塩基の補給

D 分 布

北海道山越郡長万部町・八雲町

記載責任者 山口 正栄 (北海道立中央農業試験場)

昭和47年3月31日

立 岩 南 統

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量5%内外、土性はSLを主とする。色は10YRで明度3～4、彩度3、弱度の塊状構造で可溶性・粘着性ともに弱、ち密度は中、pH(H₂O)6前後、層界は明瞭である。

第2層は厚さ5cm前後で浮石砂を含む砂層である。

第3層は厚さ10cm前後で腐植含量5%内外、土性Cを主とする。色は10YRで明度4、彩度2、弱度の塊状構造で可溶性・粘着性ともにやや強、雲状・点状斑富む。ち密度は疎である。pH(H₂O)6前後、層界は明瞭である。

第4層は厚さ25cm前後で腐植を欠き土性はCLを主とする。色は10YRで明度5、彩度3～4、無構造で均質状を呈し、中孔を含む。可溶性・粘着性ともに強、雲状・点状斑に頗る富む。ち密度は疎である。pH(H₂O)6前後、層界は明瞭である。

第5層は概ね60cm以下で腐植を欠き土性はCLを主とする。色は10YRで明度6～7、彩度3～4、無構造で均質状を呈す。可溶性・粘着性ともに強、ち密度は疎である。pH(H₂O)6前後。

代表的断面形態

所在地 山越郡八雲町立岩 試坑係 Y-16

第1層	0～18cm	腐植含む暗褐(10YR3/4)のSL 弱度の塊状構造、可溶性・粘着性弱、ち密度は中、pH(H ₂ O)6.3、湿り湿、層界明瞭
-----	--------	--

第2層	18~23	鈍黄橙 (10YR7/4~6) の砂層、グライ斑含む。湿り湿、層界明瞭
第3層	23~32	腐植含む灰黄褐 (10YR4/2) のLiC、弱度の塊状構造、可塑性・粘着性やや強、雲状・点状斑含む。ち密度疎、pH (H ₂ O) 6.2、湿り湿、層界明瞭
第4層	32~57	鈍黄褐 (10YR5/4) のL、無構造で均質状で一部弱度の塊状構造、可塑性・粘着性强、雲状・点状斑頗る含む。ち密度疎、pH (H ₂ O) 6.2、湿り湿、層界明瞭
第5層	57~	鈍黄橙 (10YR7/3) のSiC、無構造で均質状、可塑性・粘着性强、雲状・点状斑含む。ち密度疎、pH (H ₂ O) 6.2、湿り湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~18	2.6	45.2	26.2	19.0	9.6	S L			2.03	0.15	13.5	3.4
2	23~32	8.9	6.1	28.6	39.6	25.7	LiC			2.58	0.22	11.7	4.1
3	32~57	7.0	3.7	57.9	26.3	12.1	L			—	—	—	—
4	57~	10.5	2.4	13.6	45.8	38.2	SiC			—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度 Y1	塩基置換 容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g				石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 効 磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O				
1	6.3	5.5	1.3	12.3	11.4	0.7	0.2		92.7	606	11.3
2	6.2	4.8	2.4	29.0	15.9	5.9	0.2		54.8	1304	2.5
3	6.2	4.6	3.3	27.3	13.3	8.2	0.1		48.7	1322	5.4
4	6.2	4.3	3.9	55.2	28.8	23.2	0.2		52.2	1767	3.4

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統には山崎北統があるが、下層に礫層が存在するので区分した。

A-3 母 材

非固結水成岩

A-4 堆積様式

水積 (河成)

B 地 形

河川流域の低平地

C 気 温

年平均気温 7.8℃

年降水量 1156mm

D 植生及び利用状況

概ね畑地・草地である。

E 農業上の留意事項

山 崎 北 統

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量4%内外、小～中円礫を含み土性はLを主とする。色は10YRで明度4、彩度3、弱度の細粒状構造で細孔を含む。糸根状斑富む。可塑性・粘着性ともに中、ち密度は疎である。pH (H₂O) 6前後、層界は明瞭である。

第2層は厚さ10cm前後で腐植を欠き、土性はCLとSの互層である。色は10YRで明度6、彩度3、無構造で均質状を呈し脈状斑に富む。可塑性・粘着性ともに弱、ち密度は疎である。pH (H₂O) 6.5前後、層界は明瞭である。

第3層は厚さ20cm前後で腐植を欠き浮石砂を主とする砂層である。

第4層は厚さ20cm前後で腐植を欠き土性はCとSの互層。色は5Gで明度4～5、彩度1のグライ層、無構造で均質状を呈す。層界は明瞭である。

第5層は概ね70cm以下で中円礫よりなる礫層である。

代表的断面形態

所在地 山越郡八雲町山崎 試坑No Y-32

第1層	0～20cm	腐植含む鈍黄褐(10YR4/3)のL、弱度の細粒状構造、糸根状斑富む。可塑性・粘着性中、pH (H ₂ O) 6.2、湿り半湿、層界明瞭
第2層	20～32	鈍黄橙(10YR6/3)のCLとSの互層、無構造で均質状、脈状斑に富む。可塑性・粘着性弱、pH (H ₂ O) 6.8、湿り湿、層界明瞭
第3層	32～52	灰白(10YR7/1)の砂層、湿り湿、層界明瞭
第4層	52～75	暗緑灰(5G4/1)のSとCの互層、無構造で均質状、可塑性・粘着性强、湿り湿、層界明瞭
第5層	75～	中円礫よりなる礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～20	7.3	14.1	37.9	33.1	14.9	L			2.40	0.18	13.3	3.8
2	20～32	6.2	8.8	58.6	24.2	8.4	SL			—	—	—	—

層位	pH		置換性 度 Y1	塩基置換 容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g				石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 効 陽 離 子 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O				
1	6.2	4.4	5.0	28.5	14.9	6.7	0.3		52.3	1088	11.0
2	6.8	6.2	0.6	30.3	18.3	8.5	0.1		60.4	1094	12.4

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては立岩南統があるが、土層内にグライ層、礫層が出現しないので区分した。

A-3 母材

非固結水成岩

A-4 堆積様式

水積 (河成)

B 地形

河川流域の低平地

C 気候

年平均気温 7.8℃

年降水量 1,156 mm

D 植生及び利用状況

畑地・草地・一部水田

E 農業上の留意事項

排水完備、深耕、有機物施用、塩基の補給

F 分布

北海道山越郡八雲町、花浦、山崎

調査及び記載責任者

宮脇 忠

(北海道立中央農業試験場)

昭和47年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡略分級式
山崎北 — 山崎北	III w II t d g na

② 土壌区別説明

山崎北統 — 山崎北区

示性分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有表土の層の厚さ	表土の粘着性	表土の風乾の硬さ	土の透水性	自保湿度	養分固着力	土層の塩基状態	置換の石灰含量	有機物の量	微酸	有害物質の無性	物理的障害の無性	災冠水の危険度	地すべりの危険度	傾斜の傾斜	人為的傾斜	侵蝕度	耐風蝕性	
t d g p	w	f	n	i	a	s	e													
III II II II I 1 2 1 III 1 2 3 I 1 2 1 II 1 1 2 1 1 2 I 1 1 II 2 1 I 1 — — I 1 1 1																				
簡略分級式 III w II t d g na																				

A 土壤区の特徴

この土壤区は山崎北統に属する。表土は20cm前後でやや浅く、有効土層75cm前後で中、表土の土性中粒質で耕起・砕土は容易。透水性大、保水性中で排水状態悪く湿地となっている。保肥力大、固定力小、塩基状態良で肥沃度は高いほうである。養分は加里が少なめで強酸性を呈する。豪雨時には一時的に冠水する。

B 植生及び利用状況

大部分が畑地・草地であるが一部水田となっている。

C 地力保全上の問題点

排水を完全にすることが无決である。作土が浅いから深耕をし、腐植が少ないので堆きゅう肥などの有機物を十分に施用し地力の維持増進に極力努めること。塩基類が流亡しやすい土壤である。増肥すること。

D 分 布

北海道山越郡八雲町花浦、山崎

記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

昭和47年3月31日

富 咲 統

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量2%内外、小半角礫を含み土性はSLを主とする。色は10YRで明度4、彩度3、発達弱度の粒状構造で可塑性・粘着性を欠く。ち密度は疎である。pH(H₂O) 5~5.5、層界は判然である。

第2層は厚さ40cm前後で腐植を欠き土性はSとL~CLの互層である。色は10YRで明度4~6、彩度3~4、弱度の塊状構造で可塑性・粘着性ともに弱、ち密度は疎である。層界は判然である。

第3層は概ね60cm以下で腐植を欠き土性Lを主とする。色は10YRで明度4、彩度4、弱度の細塊状構造で細孔に富み可塑性・粘着性は中である。ち密度は疎である。

代表的断面形態

所在地 山越郡八雲町上八雲 試坑No Y-30

第1層	0~22cm	腐植含む鈍黄褐(10YR4/3)のLS、小半角礫含む、弱度の粒状構造、可塑性・粘着性欠く、ち密度疎、pH(H ₂ O) 5.3、湿り乾、層界判然
第2層	22~62	鈍黄褐(10YR4/3)のCL~Lと鈍黄橙(10YR6/4)のS、小半角礫を含む。弱度の塊状構造、可塑性・粘着性弱、ち密度疎、湿り半湿、層界判然

第3層	62~	褐(10YR4/4)のL、弱度の細塊状構造、細孔富む。可塑性・粘着性中、ち密度疎、湿り半湿
-----	-----	---

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~22	2.3	44.2	44.8	7.1	3.9	LS			0.88	0.06	14.7	1.5

層位	p H		置換酸 度 Y1	塩基置換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g				石 灰 飽 和 度 %	磷酸吸収 係 数	有効磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O				
1	5.3	4.1	1.3	11.3	5.7	2.0	0.3		50.4	289	13.8

A-2 他の土壌統との関係

・本統に類似する土壌統には黒岩北統があるが礫層が出現するので区分した。

A-3 母 材

非固結水成岩

A-4 堆積様式

水積(扇状堆土)

B 地 形

緩傾斜の扇状地

C 気 候

年平均気温 7.8℃ 年降水量 1,156mm

D 植生及び利用状況

概ね畑地・草地である。

E 農業上の留意事項

深耕、有機物施用、塩基の補給、酸性矯正

F 分 布

北海道山越郡八雲町上八雲、富咲の河川流域の扇状地

調査及び記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

昭和47年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
富咲 - 富咲	II g f n s

② 土壌区別説明

富咲統 - 富咲区

示性分級式 (畑)

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	耕起の容易さ	表土の風乾の粘性	表土の粘着性	透水性	保水性	自然潤肥度	固定力	養分塩基状態	置換の塩基状態	石灰含有量	加里含有量	有微酸	微酸量	有害物質の有無	物理的障害の有無	増冠水の危険度	地すべりの危険度	傾斜の方向	人為的傾斜	耐水蝕性	耐風蝕性	
t d g p		w	f	n										i	a	e	e							
III I I II I 1 1 (2)	I 1 2 1 II 2 1 2 II 2 1 2 1 1 2 I 1 1 I 1 1 II 2 -- I 1 1 1																							
簡略分級式		II g f n s																						

A 土壤区の特徴

この土壤区は富咲統に属する。表土は30 cm以上で深く、有効土層1 m以上で深い。表土の土性粗～中粒質で耕起・砕土は容易。透水性大、保水性中で過湿・過乾のおそれは少ない。保肥力中、固定力ごく小、塩基状態中で肥沃度は中位。養分は石灰・加里が不足気味で強酸性を呈す。

B 植生及び利用状況

概ね畑表・草地である。

C 地力保全上の問題点

作土が浅めで深耕すること。腐植が少ないから堆きゅう肥などの有機物を施用し、保肥力を高め地力の維持・増進に努めること。加里に不足しているので増肥すべきである。酸性を呈しているから炭カル200～300Kg/10aを撒布すること。

D 分布

北海道山越郡八雲町上八雲、富咲の一部

記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

昭和47年3月31日

黒 岩 北 統

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20 cm前後で腐植含量2～3%、半風化の小～中円礫を含む～富む。土性はSLを主とする。色は10 YRで明度3、彩度3～4、発達弱度の粒状構造、可塑性・粘着性ともに弱、ち密度は中、pH (H₂O) 5.5～6.0、層界は明瞭である。

第2層は厚さ15 cm前後で腐植を欠き中半角礫を含む。土性はSを主とする。色は10 YRで

明度 5~6、彩度 2~3、無構造で単粒状を呈する。可塑性・粘着性ともに欠く、ち密度は疎~中、層界は明瞭である。

第3層は厚さ10cm前後で腐植を欠き小半角礫よりなる礫層である。

第4層は概ね45cm以下で中半角礫よりなる礫層である。

代表的断面形態

所在地 山越郡八雲町黒岩 試坑 No. Y-33

第1層	0~20cm	腐植含む培褐(10YR3/3)のL、小~中半角礫富む。弱度の粒状構造、可塑性・粘着性ともに弱、ち密度は中、pH(H ₂ O) 5.7、湿り半乾、層界明瞭
第2層	20~34	灰黄褐(10YR6/2)のS、中半角礫含む。無構造で単粒状、ち密度は疎、湿り半湿
第3層	34~44	小半角礫よりなる礫層で、礫間に灰黄褐(10YR4/2)のCL(触感)を充填する。
第4層	44~	中半角礫よりなる礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	3.9	41.6	36.6	12.5	9.3	SL			1.45	0.09	16.1	2.4

層位	pH		置換酸 度 Y1	塩基置換 容 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g				石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 効 磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O				
1	5.7	5.2	1.4	18.3	14.8	5.3	1.1		86.5	704	20.3

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統には富咲統があるが、礫層が存在しないので区別した。

A-3 母 材

半固結水成岩(砂岩・泥岩・頁岩等)

A-4 堆積様式

水積(扇状堆土)

B 地 形

5°前後の扇状地

C 気 候

年平均気温 7.8℃

年降水量 1,156mm

D 植生及び利用状況

畑地 (デントコーン・豆類)

E 農業上の留意事項

有機物施用、深耕

F 分布

北海道山越郡八雲町黒岩の一部

” ” 長万部町茶屋川の大部分

調査及び記載責任者

宮脇 忠

(北海道立中央農業試験場)

山口 正栄

昭和47年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡略分級式
黒岩北 — 黒岩北	III di ItGs

② 土壌区別説明

黒岩北統 — 黒岩北区

示性分級式

土壌主産力の可能性等級	表土の層の厚さ	表土の粘着性	表土の風乾性	土の透水性	保湿度	自然肥力	固定力	養分状態	置換性	有微酸	有物理的障害の有無	増冠水の危険度	地すべりの危険度	自然傾斜	人為傾斜	耐水風蝕性				
t d g p	w	f	n	i	a	s	e													
III	II	III	II	I	1	1	1	I	1	3	I	1	1	II	2	—	I	1	1	1
簡略分級式 III di ItGs																				

A 土壌区の特徴

この土壌区は黒岩北統に属する。表土は20cm前後でやや浅く、有効土層35cm前後で浅い。表土の土性は中粒資で耕起・砕土は容易である。透水性大、保水性小で過湿・過乾のおそれは少ない。保肥力中、固定力小、塩基状態良で肥沃度は高いほうである。養肥分はどれも多めである。礫層が35cm前後より存在し、障害となっている。地形は傾斜5前後の扇状地形である。

B 植生及び利用状況

畑地でデントコーン・豆類が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

腐植が少ないので完熟した堆きゅう肥等の有機物を施用すること。また作土層が浅いので深耕し、

漸次作土の榮化を計ること。

D 分 布

北海道山越郡長万部町茶屋川の大部分

・ ・ 八雲町黒岩の一部

記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

昭和47年3月31日

3 保全対策地区区分及び説明

1) 保全対策地区の設定

土壌断面の特徴及び対策等を考慮して次の保全対策地区を設定した。

保全対策地区名	該当土壌区	面積 (ha)	主な特徴	重要な保全対策
熱 田	豊津一豊津 黒岩一黒岩 八雲一八雲 熱田一熱田 入沢一入沢 大新一大新 桜野一桜野 鉛川一鉛川	3412	表土は粗粒な浮石砂層 (K-d) よりなる。 土壌が乾燥しやすい 保肥力が小さく養分が流亡しやすい。 緩傾斜地～傾斜地である。	混層耕 有機物施用 塩基の補給 侵蝕の防止
落 部	上八雲一上八雲 落部一落部 山越一山越	274	表土は粗粒な浮石砂層 (K-d) である。 上部台地からの滲透水で湿性を呈する	排水完備 塩基の補給 有機物施用 酸性矯正
立 岩	わらび野一わらび野 春日一春日 立岩一立岩 茶屋川一茶屋川 富咲一富咲 黒岩北一黒岩北	862	河川流域に分布する沖積地 (河成・扇状堆土) である。 表土は腐植に乏しい。 下層は砂質～礫質である。	有機物施用 塩基の補給 深耕
山 崎	八雲北一八雲北 花浦一花浦 わしのす一わしのす 山崎一山崎 立岩南一立岩南 山崎北一山崎北	520	泥炭地およびその周辺の土壌で過湿地である。 強酸性を呈する。	排水完備 酸性矯正 塩基の補給

2) 保全対策地区別説明

＜熱田保全対策地区＞

(1) 分布状況

郡 市 町 村 名	面積 (h a)	備 考	(該当土壤区)
山越郡八雲町	3 4 1 2	豊津・黒岩・八雲・熱田・入沢・大新・桜野	

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

表土から20～40数cmの厚さで粗粒なK-dの浮石層が堆積しており、保肥力が小さく、養肥分が流亡しやすく、また過乾になりやすい。地形は緩傾斜の海岸段丘・河岸段丘と傾斜4～12°の台地である。

② 営農の方向・その他

浮石層の下部は腐植の多い細粒質の土壤が堆積しており、50～70cmまでの混層耕を実施するとよい。この埋没層は磷酸固定力が強いから熔磷、有機物等の土改資材の投入を要する。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地区及び 対象面積(ha)	実 施 方 法	対策資材及び機械器具 の種類・型式・数量等
混 層 耕	全区	50～70cmの混層耕	工費の助成
有機物施用	3 4 1 2	熔磷・炭カル・有機物の投入	大型機械の導入
塩基の補給		完熟堆きゅう肥、緑肥鋤込み	指導の徹底
侵蝕防止	黒岩・八雲1861	加里、苦土及び磷酸の増肥 草地化の推進	"

＜落部保全対策表区＞

(1) 分布状況

郡 市 町 村 名	面積 (h a)	備 考	(該当土壤区)
山越郡八雲町	2 7 4	上八雲・落部・山越	

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

表土の浮石層よりなるが上部台地からの滲透水の影響で湿性を呈している。酸度が比較的強い。石灰・加里に欠乏している。

② 営農の方向・その他

排水の施工が急務である。台地際に補水溝を設けても効果がある。加里をはじめ養肥分に欠乏しやすいから施肥管理に留意のこと。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地区及び 対象面積(ha)	実 施 方 法	対策資材及び機械器具 の種類・型式・数量等
排水完備 塩基の補給 有機物施用 酸性矯正	全区 274	明・培渠、補水溝の施工 特に加里の増肥 堆きゅう肥、緑肥、稲わら等 炭カル散布	工費の助成 指導の徹底 " "

<立岩保全対策地区>

(1) 分布状況

郡 市 町 村 名	面積 (h a)	備 考 (該当土壌区)
山越郡八雲町	862	わらび野・春日・立岩・茶屋川・富咲・黒岩北

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

河川流域に分布する河成沖積と扇状地で砂質～礫質の土壌で表土の腐植含量少ないが養肥分は全般的に富み、肥沃な土壌である。一般に作土層が浅めである。

② 営農の方向・その他

堆きゅう肥等の有機物の施用が必要である。粗粒な土壌で養分が流亡しやすいので施肥管理に留意されたい。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地区及び 対象面積(ha)	実 施 方 法	対策資材及び機械器具 の種類・型式・数量等
有機物施用 塩基の補給 深 耕	862	堆きゅう肥、緑肥、稲わら等 加里・苦土および磷酸 有機物、熔燐等の投入	指導の徹底 " "

<山崎保全対策地区>

(1) 分布状況

郡 市 町 村 名	面積 (h a)	備 考 (該当土壌区)
山越郡八雲町	520	八雲北・花浦・わしのす・山崎・立岩南・山崎北

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

泥炭地とその周辺の過湿となっている土壌をとりまとめたものである。いづれも排水不良で酸性が強く、加里・苦土・石灰等に不足している。

② 営農の方向・その他

排水工事はかなり進んでいるが未だ充分ではないので今後とも各土壌区の排水状況を配慮のうえ組織的に工事を行なうことが望ましい。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地区及び 対象面積(ha)	実 施 方 法	対策資材及び機械器具 の種類・型式・数量等
排水完備 酸性矯正 塩基の補給	全区 520	各土壤区を関連させ組織的に行なう 炭カルの撒布 加里・苦土・石灰等	工費の助成 指導の徹底 #

土 壤 分 析 成 績

土壤分析成績(畑) 八雲町その1

保 全 策 区	土 壤 区	地 点 第 号	層 位	深 さ cm	理							学			
					風乾細土中		細 土 無 機 物 中					土 性	現地における 100cc		
					水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	ソ ル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc
豊 津	35	1	0~21	2.7	7.7	44.5	29.5	7.4	20.8	5.2	SL				
		2	21~29	11.1	16.3	4.7	30.0	34.7	46.8	18.5	SiCL				
		3	29~43	13.9	12.8	4.7	48.8	53.5	38.1	8.4	L				
		4	43~55	11.0	8.5	5.9	53.4	59.3	35.5	5.2	L				
		5	55~	7.6	—	8.1	57.1	65.2	25.8	9.0	SL				
黒 岩	34	1	0~23	5.0	7.3	22.4	33.0	55.4	34.8	9.8	L				
		2	23~34	8.9	6.8	5.0	53.0	58.0	37.6	4.4	L				
		3	34~46	9.7	—	4.4	54.3	58.7	35.1	6.2	L				
		4	46~	9.6	—	17.3	44.9	62.2	32.3	5.5	L				
八 雲 畑 田	19	1	0~15	1.7	4.1	72.7	16.5	89.2	6.2	4.6	LS				
		2	45~58	11.6	16.3	11.6	31.9	43.5	40.4	16.1	CL				
		3	58~71	12.4	24.4	19.2	42.9	62.1	33.4	4.5	L				
		4	71~85	9.6	8.7	20.9	56.7	77.6	20.2	2.2	SL				
		5	85~	7.6	—	23.7	56.9	80.6	18.0	1.4	SL				
	6	1	0~13	1.4	2.7	70.8	16.9	87.7	9.3	3.0	LS				
		2	33~53	10.2	8.8	5.7	44.2	49.9	44.9	5.2	L				
		3	53~	11.6	—	10.9	60.2	71.1	28.9	0	SL				
	27	1	0~12	3.9	8.3	19.2	39.1	58.3	32.4	9.3	L				
		2	23~48	9.5	9.1	2.2	39.5	41.7	49.3	9.0	SiL				
		3	48~	11.5	—	5.1	57.6	62.7	32.5	4.8	L				
	雲	2	1	0~20	1.8	4.8	60.9	23.6	84.5	12.1	3.4	SL			
			2	41~50	10.1	21.2	17.2	30.4	47.6	39.1	13.3	L			
			3	50~62	16.4	26.6	6.8	28.2	35.0	42.3	22.7	CL			
	熱 田	9	1	0~25	1.5	3.0	—	—	—	—	—	—			
2			25~38	0.4	0	94.7	3.2	97.9	0	2.1	S				
3			38~54	11.0	24.2	6.1	31.5	37.6	40.4	22.0	CL				
4			54~65	10.7	13.5	11.5	56.4	67.9	26.6	5.5	SL				
5			65~	10.2	6.0	19.5	58.4	77.9	20.4	1.7	SL				
11		1	0~20	4.2	15.6	56.0	24.9	80.9	14.5	4.6	SL				
		2	30~45	12.6	18.4	3.9	44.2	48.1	43.1	8.8	L				
		3	45~58	10.6	9.6	6.5	65.1	71.6	27.8	0.6	SL				
		4	58~73	11.0	—	10.5	62.7	73.2	23.6	3.2	SL				
		5	73~91	12.2	—	16.9	57.1	74.0	23.5	2.5	SL				
		6	91~	8.3	—	56.8	32.2	89.0	11.0	0	S				
28	1	0~20	12.9	10.4	2.6	45.1	47.7	42.1	10.2	L					
	2	29~54	2.4	5.9	38.8	34.1	72.9	22.1	5.0	SL					
	3	54~71	15.5	8.5	2.2	65.1	67.3	28.3	4.4	SL					
	4	71~	12.8	—	1.8	70.0	71.8	26.7	1.5	SL					

性		化 学 性												
理学法中		P H		置 換 酸 度 Y1	有 機 物			塩 基 性 置 換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 數	有 効 態 磷 酸 me/100g
空 氣 容 積 CC	孔 隙 率 %	H2O	KCL		T-C	F-N	C/N		CaO	MgO	K2O			
		5.7	4.6	5.5	4.57	0.22	2.08	12.3	69.2	12.4	11.1	20.3	703	8.1
		5.5	4.4	8.8	10.60	0.43	2.47	5.45	340.7	5.45	14.2	22.4	2,192	18.5
		5.5	4.5	6.9	8.61	0.42	2.05	3.65	123.8	4.21	7.9	12.1	2,531	6.2
		5.6	4.6	3.8	5.53	0.29	1.91	2.74	56.8	4.53	9.7	7.3	2,421	4.7
		5.5	4.9	3.1	—	—	—	1.77	48.6	4.80	10.1	9.6	2,173	5.4
		5.4	4.8	5.0	4.46	0.28	1.59	1.77	183.0	3.49	4.86	3.67	1,072	14.7
		5.6	4.6	2.4	4.30	0.24	1.79	2.20	73.9	2.66	3.39	11.8	2,130	10.2
		5.5	4.7	1.3	—	—	—	2.15	84.5	1.52	2.26	14.0	2,243	5.5
		5.8	4.8	5.5	—	—	—	2.08	68.2	4.4	17.8	11.5	2,307	5.5
		6.2	5.9	0.6	2.42	0.17	1.42	7.1	174.5	2.95	10.2	87.3	340	52.2
		5.8	4.7	2.5	10.63	0.81	1.31	6.11	497.3	7.39	2.44	29.1	2,416	7.9
		5.5	4.7	2.5	16.13	1.19	1.37	4.57	198.5	3.22	1.63	15.5	2,538	5.7
		5.8	4.8	1.9	5.53	0.39	1.42	2.37	95.6	4.63	1.53	14.3	2,278	5.5
		5.8	4.8	1.5	—	—	—	2.16	78.9	2.88	1.60	13.0	2,080	6.2
		6.6	6.0	1.3	1.55	0.09	1.72	5.7	121.7	2.29	1.68	77.2	248	29.1
		6.4	5.5	0.6	5.08	0.31	1.64	2.32	312.4	4.04	4.97	47.8	1,692	2.5
		6.4	5.4	1.1	—	—	—	2.44	203.0	2.28	5.23	29.5	2,008	1.7
		5.6	4.7	1.3	4.82	0.34	1.42	1.39	105.0	2.94	7.5	2.66	786	3.8
		6.0	4.8	4.4	5.27	0.37	1.42	1.92	167.3	10.96	9.5	31.3	1,598	1.9
		5.8	4.9	3.3	2.78	—	—	2.64	25.3	1.82	9.7	3.4	2,256	2.3
		5.8	4.6	1.9	12.28	0.18	1.54	7.5	68.5	2.87	3.7	32.0	350	15.5
		6.0	5.0	1.3	15.38	0.59	2.08	5.16	823.2	3.59	11.7	57.0	1,558	5.6
		5.5	4.3	8.8	1.20	0.82	1.88	4.35	275.1	3.37	14.6	2.25	2,136	3.9
		5.7	4.7	2.5	1.73	0.10	1.73	5.3	56.9	2.29	6.5	37.7	136	15.5
		6.4	5.2	0.6	—	—	—	1.4	11.2	4.0	4.0	28.6	120	12.8
		5.4	4.5	5.0	13.96	0.75	1.86	5.66	365.6	7.25	6.50	23.0	2,000	4.8
		5.4	4.7	3.1	7.78	0.53	1.47	3.63	79.2	3.34	8.44	7.7	2,240	6.0
		5.7	5.0	1.9	3.49	0.23	1.52	2.01	37.4	2.25	7.51	6.5	2,008	3.0
		5.7	4.8	1.9	3.35	0.16	2.09	1.19	107.7	3.19	10.3	32.8	981	16.2
		5.7	4.5	8.1	12.14	0.54	2.25	4.96	141.2	6.45	9.6	10.1	2,533	6.4
		5.8	4.8	3.1	6.21	0.34	1.83	3.07	31.3	4.06	9.0	3.6	2,486	6.7
		5.8	5.4	1.6	—	—	—	1.73	18.9	4.26	2.30	4.0	2,383	5.4
		5.9	5.4	0.9	—	—	—	1.69	25.5	1.83	13.6	5.3	2,355	5.5
		5.9	5.8	1.6	—	—	—	9.2	12.2	1.32	2.12	4.3	1,968	5.2
		5.8	4.9	4.4	6.03	0.44	1.37	25.7	172.5	1.94	6.4	24.1	1,914	2.3
		5.6	4.6	1.4	3.38	0.25	1.35	6.6	36.8	3.97	4.3	19.7	676	7.0
		5.9	4.7	1.9	4.89	0.34	1.44	2.72	66.4	2.86	7.1	8.8	2,112	4.2
		5.6	4.7	1.9	—	—	—	2.53	38.6	1.11	8.5	5.5	2,060	2.3

土壤分析成績(畑) 八雲町その2

保 全 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理							学				
					風乾細土中		細土無機物中					土 性	現地における 100CC			
					水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合計 %	シル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 CC	水 分 容 積 CC	
熱	入	1	1	0~25	1.7	3.7	68.9	16.9	85.8	9.0	5.2	LS	101.9	48.0	19.3	
			2	25~40	0.3	—	96.9	2.4	99.3	0	0.7	S	108.7	49.1	12.0	
			3	40~48	6.4	9.8	27.6	8.6	36.2	34.6	29.2	LiC	81.0	40.2	41.2	
			4	48~	6.1	—	1.1	19.2	20.3	44.3	35.4	LiC	91.0	43.0	37.1	
	沢	18	1	0~20	2.2	5.5	65.7	18.6	84.3	11.0	4.7	SL				
			2	44~65	7.3	7.4	3.3	37.9	41.2	39.4	19.4	CL				
			3	65~	6.1	3.8	0.4	58.5	58.9	29.9	11.2	L				
	大 新	13	1	1	0~26	2.3	3.1	62.6	20.6	83.2	12.3	4.5	SL	142.0		
				2	26~45	13.7	25.2	2.6	30.2	32.8	51.8	15.9	SiCL	109.5		
				3	45~56	15.6	35.7	6.5	48.0	54.5	39.1	6.4	L	104.0		
				4	56~	15.0	9.3	8.5	60.8	69.3	30.1	0.6	L			
		14	1	1	0~31	2.8	4.8	54.1	23.8	77.9	13.3	8.8	SL			
2				31~44	11.3	22.7	5.3	33.7	39.0	44.4	16.6	CL				
3				44~55	13.9	13.7	3.6	61.1	64.7	28.4	6.9	L				
4				55~	14.4	6.7	7.3	70.0	77.3	22.7	0	SL				
田	桜 野	4	1	0~22	1.9	3.5	61.4	22.0	83.4	12.8	3.8	SL				
			2	22~37	15.0	18.4	4.9	47.6	52.5	39.0	8.5	L				
			3	37~50	5.4	3.4	13.5	32.9	46.4	33.8	19.8	CL				
	鉛 川	20	1	0~20	4.2	4.4	41.2	31.8	73.0	16.7	10.3	SL				
			2	20~31	9.1	3.5	7.7	58.9	66.6	27.2	6.2	SL				
	上 八 雲 落	26	1	0~18	2.8	5.6	36.3	33.4	69.7	24.9	5.4	SL				
			2	18~36	9.1	7.9	13.2	33.0	46.2	39.7	14.1	L				
			3	36~	13.1	—	22.3	52.1	74.4	22.1	3.5	SL				
		29	1	0~20	4.1	6.6	27.3	40.8	68.1	27.1	4.8	SL				
			2	28~42	6.5	4.2	9.4	30.3	39.7	31.9	28.4	LiC				
	落 部	7	1	0~16	1.9	3.2	66.1	19.0	85.1	9.0	5.9	LS				
			2	16~28	3.3	—	51.6	26.1	77.7	14.6	7.7	SL				
8		1	0~16	2.2	2.9	—	—	—	—	—	—					
山 越	10	1	1	0~38	2.4	4.3	61.9	20.9	82.8	13.9	3.3	SL				
			2	38~50	1.5	2.3	35.3	37.0	72.3	23.7	4.0	SL				
			3	68~80	11.0	15.6	4.3	29.7	34.0	41.8	24.2	CL				
	12	1	1	0~25	2.3	5.1	62.2	22.7	84.9	11.1	4.0	SL				
			2	37~45	8.3	11.9	3.9	26.5	30.4	45.8	23.8	SiCL				
			3	45~60	11.1	8.4	0.8	15.6	16.4	48.6	35.0	SiC				

性		化 学 性												
理学性 容 中	孔 隙 率 %	P H		置 换 酸 度 Y 1	有 機 物			塩 基 置 换 容 量 me/ 100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/ 100g
		H ₂ O	KCl		T-C	T-N	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
32.7	52.0	5.8	4.7	1.8	2.19	0.15	14.3	8.7	97.9	42.0	18.7	50.6	260	19.3
38.9	50.9	6.3	5.4	0.5	—	—	—	0.4	11.2	8.1	4.0	—	78	15.5
18.6	59.8	6.0	5.0	1.4	6.02	0.36	16.7	38.9	642.1	113.6	56.7	5.89	1,188	6.4
19.9	57.0	6.1	4.7	2.5	—	—	—	27.1	442.0	124.5	78.8	5.83	993	5.1
		5.6	5.7	1.4	3.18	0.24	13.3	10.6	233.8	16.5	26.4	79.2	256	63.4
		5.8	4.9	1.3	4.28	0.33	13.0	15.5	211.8	59.1	107.9	49.0	1,120	7.0
		5.5	4.3	10.6	2.21	0.17	13.0	24.9	537.5	49.0	115.0	77.1	1,436	3.0
		5.7	4.8	1.9	1.78	0.09	19.8	6.1	52.8	7.5	2.5	29.5	360	21.6
		5.5	4.4	8.8	14.58	0.68	21.4	51.9	240.5	28.0	6.0	16.6	2,113	3.9
		5.5	4.6	5.0	20.61	1.50	13.7	46.7	85.1	15.3	4.7	6.6	2,300	2.5
		5.3	4.7	2.5	5.40	0.36	15.0	27.0	46.2	14.2	3.8	5.9	2,222	4.3
		6.3	5.4	0.8	2.85	0.15	19.0	9.1	155.8	19.0	15.8	61.5	615	19.6
		6.1	5.1	1.3	14.77	0.61	24.2	57.9	878.5	59.1	24.3	54.1	2,283	5.9
		6.1	4.9	1.3	9.20	0.59	15.6	45.7	286.5	44.0	41.8	22.3	2,640	5.6
		6.0	5.1	1.6	4.51	0.27	16.7	24.3	137.6	25.5	7.0	20.2	2,486	4.6
		5.5	4.6	2.4	2.05	0.12	17.1	7.5	68.6	27.1	20.4	32.0	253	35.8
		5.2	4.5	5.3	12.52	0.80	15.7	34.6	137.1	15.2	31.0	14.2	2,533	2.0
		5.3	4.4	8.8	2.08	0.13	16.0	17.3	126.8	28.1	43.3	26.0	1,391	1.4
		6.1	5.2	1.8	2.65	0.21	12.6	15.5	333.8	46.4	2.5	76.8	821	14.6
		6.3	4.9	1.5	2.21	0.15	14.7	48.8	1,024.0	119.8	11.0	74.8	1,852	3.3
		5.5	4.7	2.4	3.35	0.26	12.8	7.0	28.8	37.4	3.3	14.3	696	6.4
		5.7	4.6	2.5	5.01	0.44	11.4	23.8	96.3	19.5	5.7	14.3	1,899	2.5
		5.6	4.5	2.5	—	—	—	22.3	41.3	26.0	5.5	6.7	2,410	3.5
		6.0	5.0	4.4	3.79	0.24	15.8	12.1	187.2	8.4	3.3	55.4	700	6.6
		5.9	4.6	2.6	2.41	0.25	9.6	15.4	161.8	51.7	13.9	37.7	992	3.4
		5.8	4.6	8.9	—	—	—	20.1	112.9	33.5	21.4	19.9	1,564	2.7
		5.6	4.8	1.8	1.83	0.12	15.3	8.2	62.9	45.2	9.8	26.2	444	19.0
		5.3	4.5	2.0	—	—	—	10.8	60.3	10.9	8.3	20.4	700	10.5
		5.2	4.5	3.1	1.73	0.11	15.7	8.6	88.3	27.2	26.8	37.2	464	15.1
		4.7	4.2	6.9	2.48	0.15	16.5	9.6	28.7	37.2	22.1	10.4	376	30.7
		5.2	4.7	3.0	1.33	0.07	19.0	5.5	28.4	10.7	8.9	18.2	290	17.8
		4.9	4.4	10.6	9.04	0.51	17.7	45.4	352.9	45.3	59.7	27.8	1,590	6.0
		5.5	4.7	1.9	3.00	0.19	15.8	10.2	94.2	39.6	15.2	33.3	377	60.9
		5.3	4.3	6.3	7.51	0.49	15.3	34.9	222.7	59.8	53.3	22.9	1,119	12.0
		5.1	4.0	20.0	5.43	0.25	21.7	41.0	249.9	65.4	23.3	21.7	1,712	11.8

土壌分析成績(畑) 八雲町その3

保 全 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学										
					風乾細土中		細 土 無 機 物 中					土 性	現地における 100CC		
					水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 CC	水 分 容 積 CC
立 岩	わら び野	3	1	0~21	6.4	9.8	27.6	8.6	36.2	34.6	29.2	LiC			
		24	1	0~20	3.6	2.4	42.0	35.5	77.5	12.0	10.5	SL			
	春	5	1	0~15	5.6	2.6	33.0	34.1	67.1	17.2	15.7	SCL			
			2	23~30	5.8	—	12.3	57.9	70.2	13.4	16.4	SCL			
		17	1	0~21	4.3	3.7	6.4	64.8	71.2	16.8	12.0	SL			
			2	21~34	4.6	5.4	17.7	54.5	72.2	17.0	10.8	SL			
	日	25	1	0~15	3.4	3.6	34.4	25.4	59.8	27.8	12.4	L			
			2	15~48	7.0	—	1.8	23.0	24.8	47.4	27.8	SiC			
	立 岩	15	1	0~23	5.9	2.8	10.0	43.5	53.5	29.1	17.4	CL			
			2	23~45	5.6	—	3.5	68.2	71.7	18.8	9.5	SL			
3			45~59	5.7	—	17.5	47.3	64.8	22.1	13.1	L				
築 川	0-39	1	0~20	4.4	2.1	18.3	46.2	64.5	20.3	15.2	CL				
富 咲	30	1	0~22	2.3	1.5	44.2	44.8	89.0	7.1	3.9	LS				
黒 岩 北	33	1	0~20	3.9	2.4	41.6	36.6	78.2	12.5	9.3	SL				
山 崎	八 雲 北	22	1	0~21	4.6	4.4	36.1	30.2	66.3	21.9	11.8	SL			
			2	23~33	10.4	27.3	2.9	11.4	14.3	51.5	34.2	SiC			
			3	33~39	9.1	—	0.3	17.5	17.8	51.5	30.7	SiC			
			4	39~	8.2	—	0.3	17.9	18.2	49.1	32.7	SiC			
	花 浦	23	1	0~23	6.5	11.5	19.6	29.6	49.2	33.0	17.7	CL			
			2	40~75	11.8	—	—	—	—	—	—	—			
	わ し の す	21	1	0~26	1.6	4.9	58.1	23.9	82.0	11.8	6.2	SL	91.4		
			2	26~35	8.5	—	—	—	—	—	—	—			
			3	35~89	13.0	—	—	—	—	—	—	—	17.3		
	山 崎	31	1	0~15	3.0	10.7	51.0	28.4	79.4	16.7	3.9	SL			
2			15~30	10.2	—	—	—	—	—	—	—				
3			30~53	13.1	—	—	—	—	—	—	—				
立 岩 南 山 崎 北	16	1	0~18	2.6	3.4	45.2	26.2	71.4	19.0	9.6	SL				
		2	23~32	8.9	4.1	6.1	28.6	34.7	39.6	25.7	LiC				
		3	32~57	7.0	—	3.7	57.9	61.6	26.3	12.1	L				
		4	57~	10.5	—	2.4	13.6	16.0	45.8	38.2	SiC				
	32	1	0~20	7.3	3.8	14.1	37.9	52.0	33.1	14.9	L				
2	20~32	6.2	—	8.8	58.6	67.4	24.2	8.4	SL						

性		化 学 性												
理 学 性 容 中	孔 隙 率 %	P H		置 换 酸 度 Y 1	有 机 物			盐 基 置 换 容 量 me/ 100g	置 换 性 盐 基 mg/100g			石 灰 饱 和 度 %	磷 吸 收 系 数	有 效 磷 mg/ 100g
		H ₂ O	KCl		T-C	T-N	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
		6.0	5.0	1.4	6.02	0.36	16.7	38.9	642.1	113.6	56.7	58.9	1,188	6.4
		5.8	4.8	4.4	1.43	0.10	14.3	14.9	261.7	68.5	53.1	62.4	471	23.3
		5.8	4.5	2.0	1.57	0.12	13.1	24.8	381.8	95.6	180.5	53.2	741	6.4
		6.7	5.5	0.6	—	—	—	24.2	482.4	111.3	95.6	71.1	890	14.8
		5.8	4.7	1.4	2.14	0.13	16.4	22.4	334.1	126.4	61.9	53.1	752	20.6
		5.6	4.6	2.5	3.13	0.23	13.6	22.4	358.5	114.1	34.4	57.1	676	12.0
		5.7	4.5	3.0	2.14	0.17	12.6	10.8	69.7	69.2	23.8	23.1	666	9.7
		5.6	4.2	5.0	—	—	—	26.7	331.5	130.1	41.7	44.2	958	3.0
		6.3	5.1	1.1	1.71	0.14	12.2	22.7	453.1	77.2	122.2	71.4	855	13.2
		6.5	5.0	1.4	—	—	—	21.0	433.6	70.8	65.2	73.9	815	11.6
		6.2	5.0	1.8	—	—	—	19.5	397.1	97.4	14.6	72.8	852	10.2
		7.7	4.5	1.9	1.23	0.10	12.3	21.3	286.3	76.8	16.3	48.4	488	17.1
		5.3	4.1	1.3	0.88	0.06	14.7	11.3	160.8	41.3	14.7	50.4	289	13.8
		5.7	5.2	1.4	1.45	0.09	16.1	18.3	414.5	106.6	54.8	86.5	704	20.3
		5.5	4.6	4.9	2.68	0.17	15.8	16.1	211.6	114.1	21.0	46.6	761	13.1
		5.3	4.6	17.5	1.76	1.31	13.4	54.7	532.0	173.6	10.5	34.7	1,888	1.1
		5.2	4.1	10.0	—	—	—	41.1	493.5	177.4	9.5	42.8	1,551	0.8
		5.4	4.2	1.9	—	—	—	42.3	500.8	254.7	7.4	42.3	205	0.8
		5.9	4.8	7.5	7.11	0.58	12.3	28.2	438.8	89.7	10.3	55.3	1,398	1.4
		4.7	4.0	1.3	—	—	—	65.8	349.7	114.3	3.4	19.0	552	1.5
		6.4	5.8	0.6	2.85	0.16	17.8	4.5	96.8	13.9	0.8	77.8	461	14.2
		5.0	4.3	12.7	—	—	—	27.1	61.3	37.1	5.2	8.1	990	3.7
		4.3	3.9	31.3	—	—	—	68.9	96.9	81.6	4.4	4.9	462	4.4
		6.6	6.0	2.4	—	—	—	15.3	358.5	29.1	9.6	83.7	652	15.5
		5.4	4.8	18.5	—	—	—	55.7	609.7	145.9	44.6	39.0	377	4.7
		4.6	4.1	—	—	—	—	73.1	371.8	99.9	42.6	18.1	438	9.0
		6.3	5.5	1.3	2.03	0.15	13.5	12.3	320.2	14.9	11.1	92.7	606	11.3
		6.2	4.8	2.4	2.58	0.22	11.7	29.0	445.8	118.7	8.6	54.8	1,304	2.5
		6.2	4.6	3.3	—	—	—	27.3	373.8	164.7	5.6	48.7	1,322	5.4
		6.2	4.3	3.9	—	—	—	55.2	808.0	468.4	12.1	52.2	1,767	3.4
		6.2	4.4	5.0	2.40	0.18	13.3	28.5	417.6	134.9	14.9	52.3	1,088	11.0
		6.8	6.2	0.6	—	—	—	30.3	514.1	171.9	6.6	60.4	1,094	12.4